ispace

東証グロース市場: 9348

2027年3月期
Q2
決算説明資料



2026.11.13

CONTENTS

- 01. エグゼクティブサマリ
- 02. 事業ハイライト
- 03. 財務ハイライト
- 04. Appendix





01.
エグゼクティブサマリ

- **01. エグゼクティブサマリ**
- 02. 事業ハイライト
- 03. 財務ハイライト
- 04. Appendix

PJ収益総額	M3 契約総額	M4 契約総額	財務状況	現預金	純資産
売上高+補助金	**187億円**（未計上額 **150億円**）	**324億円**（未計上額 **323億円**）		**225億円**	**57億円**
				静岡銀行から30億円を融資調達	

戦略：「シスルナ安全保障」と「月面インフラ」双方の大規模ニーズへ対応

領域	マクロ環境	当社取組と進捗
シスルナ安全保障	US **米宇宙軍大将、シスルナでの防衛能力の必要性に言及**(1) 中国・ロシアとの競争を念頭に、NASAとの連携強化を重視	US **月周回衛星を展開するM2.5は最速2027年に打上げ** Argo Spaceと自社月周回衛星の輸送契約を締結（最速2027年打上げ予定） JP **KDDIと連携拡大、月通信網を通じ「シスルナ安全保障」への貢献を目指す** 日本が主体的に運用できる月通信ネットワークの実現に向け「ルナ・コネクトサービス」とKDDIの連携を拡大
月面インフラ	US **商業月面輸送「CLPS 2」IDIQ**(6)**契約先を選定**(2) NASAの月面輸送計画 全採択企業の契約上限は100億ドル(2) JP EU **日欧の月面探査の検討が進展** 日本：2027年春に計画改定(3) 欧州：探査能力強化を支持(4)	US **ispace-U.S.、NASA「CLPS 2」のIDIQ契約先に選定** ispace-U.S.がNASAのCLPS 2におけるIDIQ(6)契約先に選定(2)。NASAから直接受注する機会を獲得し、今後の個別タスクオーダーの受注を目指す JP **M3として2028年打上げを予定するULTRAの開発は基本設計審査(PDR)完了** 今後、CDRを経て、フライトモデル製造へ。また、月面着陸の成功実績があるNammo社製エンジンやAriane社製スラスターの継続調達に向け、両社とMOUを締結 JP **JAXAの「月面太陽電池タワー**(5)**の実現に向けた概念設計」にispaceが選定** 月面基地 Moon Baseでも活用が期待される月面太陽電池タワー のJAXA の概念設計に当社が選定 JAXA側は最速2030年度の打上げを目指す

(1) https://www.nationaldefensemagazine.org/articles/2026/11/4/just-in-space-force-evaluating-moon-defense-as-needs-grow-official-says
(2) https://www.nasa.gov/news-release/nasa-awards-moon-base-transportation-technology-science-projects
(3) https://www8.cao.go.jp/space/comittee/dai124/siryou3-2.pdf
(4) https://www.esa.int/About_Us/Corporate_news/A_call_to_boost_European_space_exploration
(5) https://www8.cao.go.jp/space/comittee/27-kagaku/kagaku-dai71/siryou2.pdf
(6) IDIQ（Indefinite Delivery/Indefinite Quantity）：NASAが事前に選定した企業と結ぶ契約方式。契約先は、契約期間中にNASAが随時発注する個別案件（タスクオーダー）に応札できます。発注の数量や時期は決まっておらず、選定されても個別案件の受注が保証されるわけではありません



02.
事業ハイライト

- 01. エグゼクティブサマリ
- **02. 事業ハイライト**
- 03. 財務ハイライト
- 04. Appendix

2025年12月の米国大統領令を踏まえ、米宇宙軍はシスルナ安全保障への対応を強化中。NASAは月面基地計画に向けた具体的アクションとなる「CLPS 2」を始動

2025年12月18日

米国大統領令(1)

地球と月の間の安全保障と月面活動を推進


Credit:White House

シスルナ安全保障

2026年4月15日

米宇宙軍、シスルナ連携事務局を創設(2)

技術・調達計画を調整


Credit:USSF

2026年9月15日

シース大将、シスルナ対応強化に言及(3)


Credit:USSF

2026年11月4日

同氏、シスルナでの防衛能力の必要性に言及(4)

月面インフラ

2026年3月24日 IGNITION

NASA、2030年代までの月面基地計画を発表(5)

商業月面輸送の活用拡大



Credit:NASA

2026年11月7日 MAX POWER

NASA、商業月面輸送「CLPS 2」のIDIQ(7)契約先を公表(6)

全採択企業合計 契約上限：100億ドル(6)（期間10年）



Credit:NASA

参考｜米国以外（日欧）の動向

日欧でも月探査の検討が進展

日本：宇宙基本計画の改定議論(8)
欧州：月面探査能力の強化に向けた共通方針(9)

詳細 P12

(1) https://www.whitehouse.gov/presidential-actions/2025/12/ensuring-american-space-superiority
(2) https://breakingdefense.com/2026/04/with-eyes-on-future-nasa-moon-base-space-force-launches-cislunar-acquisition-task-force
(3) https://www.spaceforce.mil/News/Article-Display/Article/4602018/remarks-by-cso-gen-douglas-schiess-at-the-air-and-space-forces-associations-202/
(4) https://www.nationaldefensemagazine.org/articles/2026/11/4/just-in-space-force-evaluating-moon-defense-as-needs-grow-official-says
(5) https://www.nasa.gov/ignition/
(6) https://www.nasa.gov/news-release/nasa-awards-moon-base-transportation-technology-science-projects
(7) IDIQ（Indefinite Delivery/Indefinite Quantity）：NASAが事前に選定した企業と結ぶ契約方式。契約先は、契約期間中にNASAが随時発注する個別案件（タスクオーダー）に応札できます。発注の数量や時期は決まっておらず、選定されても個別案件の受注が保証されるわけではありません
(8) https://www8.cao.go.jp/space/comittee/dai124/siryou3-2.pdf
(9) https://www.esa.int/About_Us/Corporate_news/A_call_to_boost_European_space_exploration

米宇宙軍のシース大将は、「シスルナ空間」を安全保障上の重要領域と捉え、月周辺の活動を防衛する能力の必要性に言及(1) (2)。また、同領域での監視・通信・航法等の能力確保に向け、民間技術の活用を検討(3)



Credit:USSF



Credit:USSF

安全保障の競争領域がシスルナ空間へ拡大(1)

- 9月15日、米宇宙軍のダグラス・シース大将は、地球と月の間のシスルナ空間における安全保障上の対応の必要性を表明(1)
- 11月4日には、月周辺の活動を防衛するための能力の必要性に言及し、中国・ロシアとの競争を念頭に、NASAとの連携強化を重視する姿勢を示した(2)

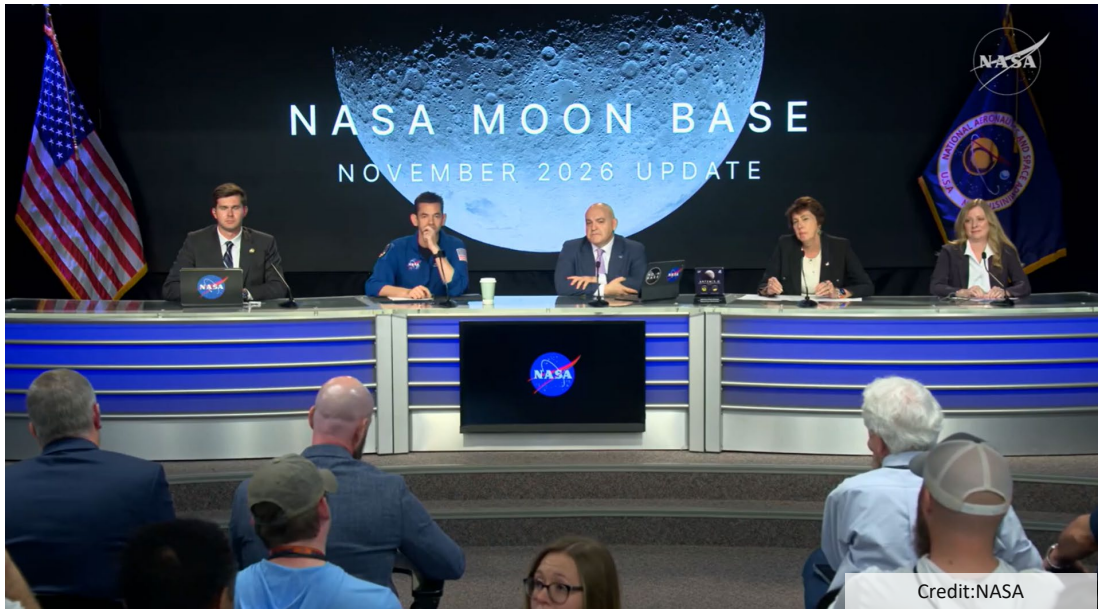
米宇宙軍、シスルナ領域の能力整備に向け民間企業との連携を推進(3)

- 10月20日、米宇宙軍の技術革新組織SpaceWERXが、シスルナ領域における能力整備を目的に、民間企業との技術連携イベントを開催(3)
- 宇宙空間の監視・追跡、通信インフラ、深宇宙での測位・航法の3分野を重点領域とし、今後の試作契約・資金提供を見据えた民間企業からの技術提案を促進(3)

(1) https://www.spaceforce.mil/News/Article-Display/Article/4602018/remarks-by-cso-gen-douglas-schiess-at-the-air-and-space-forces-associations-202/
(2) https://www.nationaldefensemagazine.org/articles/2026/11/4/just-in-space-force-evaluating-moon-defense-as-needs-grow-official-says
(3) https://sscfrontdoor.experience.crmforce.mil/SSCFrontDoor/s/events/velocity-advancing-space-force-capabilities-in-cislunar-space-industry-engagemen-MC4TTMAAD4JRHTTMKM5OX5KXVPN4

NASAが11月7～8日に航空宇宙イベント「MAX POWER」(1)を開催。商業月面輸送「CLPS 2」(2)のIDIQ(3)契約先を公表。今後、その中から主契約者を選定し、個別案件（タスクオーダー）の発注を実施する方針





NASAは航空宇宙技術のイベント「MAX POWER」を11月に開催(1)

- 11月7～8日、米国フロリダ州のNASAケネディ宇宙センターで、米国建国250周年を記念する航空宇宙イベント「MAX POWER」を開催(1)
- 次世代航空機・宇宙機、自律移動技術などの展示に加え、NASA専門家による講演、宇宙飛行士との交流、飛行実演などを実施(1)

NASAは商業月面輸送「CLPS 2」のIDIQ契約先を選定(2)

- 11月7日、NASAはCLPS 2のIDIQ契約先を選定。今後、その中から主契約者を選定し、個別案件（タスクオーダー）の発注を実施する方針(2)
- CLPS 2は今後10年間にわたりNASAが実施する月面輸送ミッションを対象とした新たな枠組みであり、契約総額は100億米ドルとされています(2)

(1) https://www.nasa.gov/maxpower/
(2) https://www.nasa.gov/news-release/nasa-awards-moon-base-transportation-technology-science-projects
(3) IDIQ（Indefinite Delivery/Indefinite Quantity）：NASAが事前に選定した企業と結ぶ契約方式。契約先は、契約期間中にNASAが随時発注する個別案件（タスクオーダー）に応札できます。発注の数量や時期は決まっておらず、選定されても個別案件の受注が保証されるわけではありません

ispace-U.S.

NASAの月面基地構築に向けた
商業月面輸送「CLPS 2」の主契約者候補に選定

CLPS 2 全採択企業（8社）への累計契約上限

約1.6兆円

（全採択企業への累計上限100億ドル、契約期間10年）

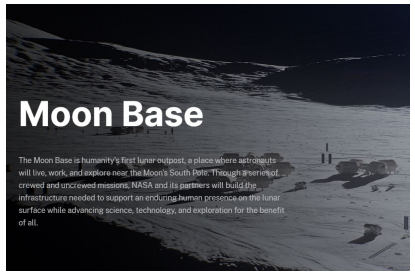
Credit:NASA



ispace-U.S.は、CLPS 1.0ではサブコントラクターとしてNASAのミッションを支援してきました。「CLPS 2」では、主契約者としてNASAの個別案件の受注競争に直接参加する機会を獲得しました（詳細は次ページ）

ispace-U.S.が商業月面輸送「CLPS 2」(1)のIDIQ契約先(3)に選定。主契約者としてNASAの個別案件の受注競争に参加でき、月面輸送ミッションの案件収益を全て確保出来る機会を獲得





Moon Base cargo landers

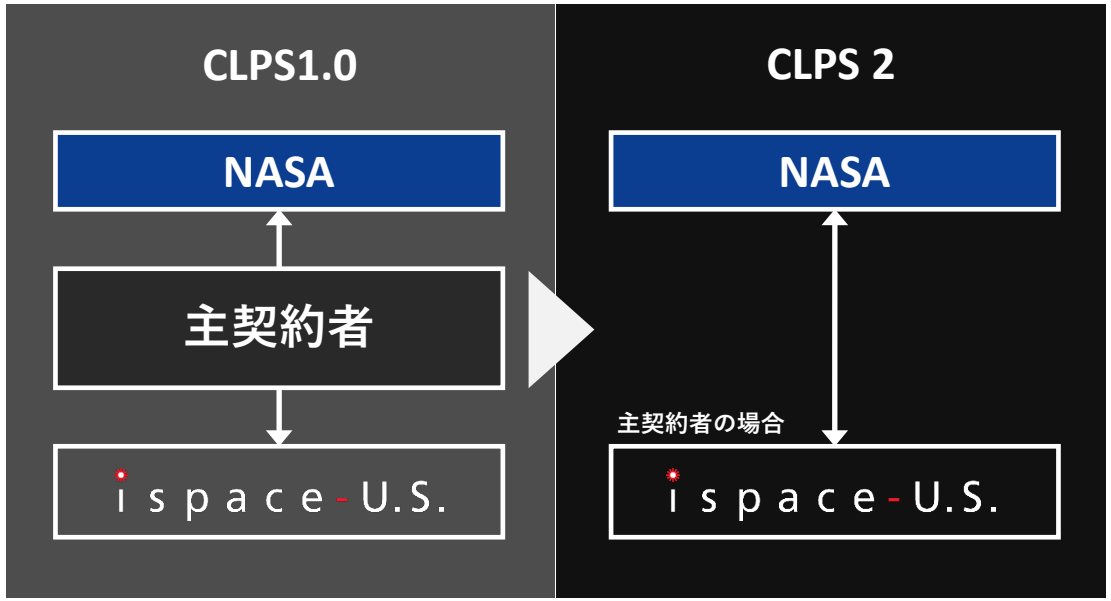
To strengthen the cargo lander network needed to support the Moon Base, NASA selected eight companies for the next phase of its CLPS (Commercial Lunar Payload Services) initiative. The companies are eligible to compete for future lunar surface delivery missions under the new CLPS 2 contract:

- Blue Origin
- Firefly Aerospace
- Intuitive Machines
- iSpace US
- Lockheed Martin Space
- Northrop Grumman Space Systems
- SpaceX
- Voyager Technologies

Under the CLPS 2 framework, the companies will provide lunar delivery services, including managing, building, and operating landers that transport NASA science, technology, and infrastructure payloads to the Moon.

The CLPS 2 framework is a 10-year, multiple-award, indefinite-delivery/indefinite-quantity master contract with a combined maximum value of $10 billion. NASA increased the value of the current CLPS 1.0 contract from $2.6 billion to $4.2 billion to support initial Phase One Moon Base objectives. The original CLPS contract will remain in place through November 2028, with an additional five-year period to complete awarded lunar deliveries through November 2033.

Credit:NASA



ispace-U.S.がCLPS 2のIDIQ(3)契約先に選定(1)

- 11月7日、NASAがispace-U.S.をCLPS 2のIDIQ(3)契約先に選定したことを発表(1)
- ispace-U.S.（コロラド州デンバー）は、ランダーの開発・組立・統合・試験・運用機能を保有。日米ランダーを統合した新モデル「ULTRA」を開発中。当社として累計2億ドル超を投資し、月面輸送ミッションの開発を支える技術基盤を整備(2)

主契約者としてNASAの個別案件の受注競争に直接参加可能に(2)

- 従来のCLPSでは、下請事業者としてNASAの月面輸送ミッションを支援(2)
- 商業月面輸送「CLPS 2」では主契約者として個別タスクオーダーの受注競争に直接参加し、月面輸送ミッションの案件収益を全て確保出来る機会を獲得(2)

(1) https://www.nasa.gov/news-release/nasa-awards-moon-base-transportation-technology-science-projects
(2) 本件に関する詳細は2026/11/9公開のプレスリリースをご参照ください
(3) IDIQ（Indefinite Delivery/Indefinite Quantity）：NASAが事前に選定した企業と結ぶ契約方式。契約先は、契約期間中にNASAが随時発注する個別案件（タスクオーダー）に応札できます。発注の数量や時期は決まっておらず、選定されても個別案件の受注が保証されるわけではありません

NASAは、月面基地建設に向けて推定70回超(6)の月面輸送を計画。CLPS 2(2)ではNASA契約上限は100億ドル(2)に拡大。今後、ispace-U.S.はIDIQ(5)契約先の8社(2)の一員として個別案件の受注を競う

	CLPS 1.0 (1)	Moon Base CLPS 2 (2)
期間	2018年から10年間(1)	2026年から10年間(2)
予算（契約上限）	42億ドル(1) (約0.7兆円)(3)	100億ドル(2) (約1.6兆円)(3)
契約授与数	17回 契約授与済み(1)	推定70回超(4)(6)
IDIQ契約社数(5)	13社(1)	8社(2) うち1社がispace-U.S.
（当社試算） 1社あたりの機会（単純平均）	約1.3回 17回 ÷ 13社	8回超(6) 70回超 ÷ 8社

(1) https://www.nasa.gov/commercial-lunar-payload-services
(2) https://www.nasa.gov/news-release/nasa-awards-moon-base-transportation-technology-science-projects
(3) 2026/9末時点のTTMレートを使用し換算
(4) https://www.nasa.gov/ignition/
(5) IDIQ（Indefinite Delivery/Indefinite Quantity）：NASAが事前に選定した企業と結ぶ契約方式。契約先は、契約期間中にNASAが随時発注する個別案件（タスクオーダー）に応札できます。発注の数量や時期は決まっておらず、選定されても個別案件の受注が保証されるわけではありません
(6) 70回超はMoon Base計画から推定した着陸回数であり、CLPS 2の正式な契約授与数ではありません

日欧で月面インフラ整備・探査能力強化が進展。日本は「宇宙基本計画」の改定議論を開始。ESA加盟国は月面探査能力強化の共通方針を支持し、12月の閣僚級会合で具体策を協議予定


Credit:内閣府

日本政府は宇宙基本計画の改定議論を開始、2027年5月の閣議決定を見込む(1)

- 9月28日、内閣府宇宙政策委員会が次期「宇宙基本計画」の改定議論を開始。月面インフラ整備・民間投資促進等も論点に(2)
- 8月の文科省審議会でも、民間活力を活かした自律的・継続的な月面アクセスの重要性が提示された(3)
- 2027年1～2月に骨子案、4月に計画案、5月頃に閣議決定を見込む(1)

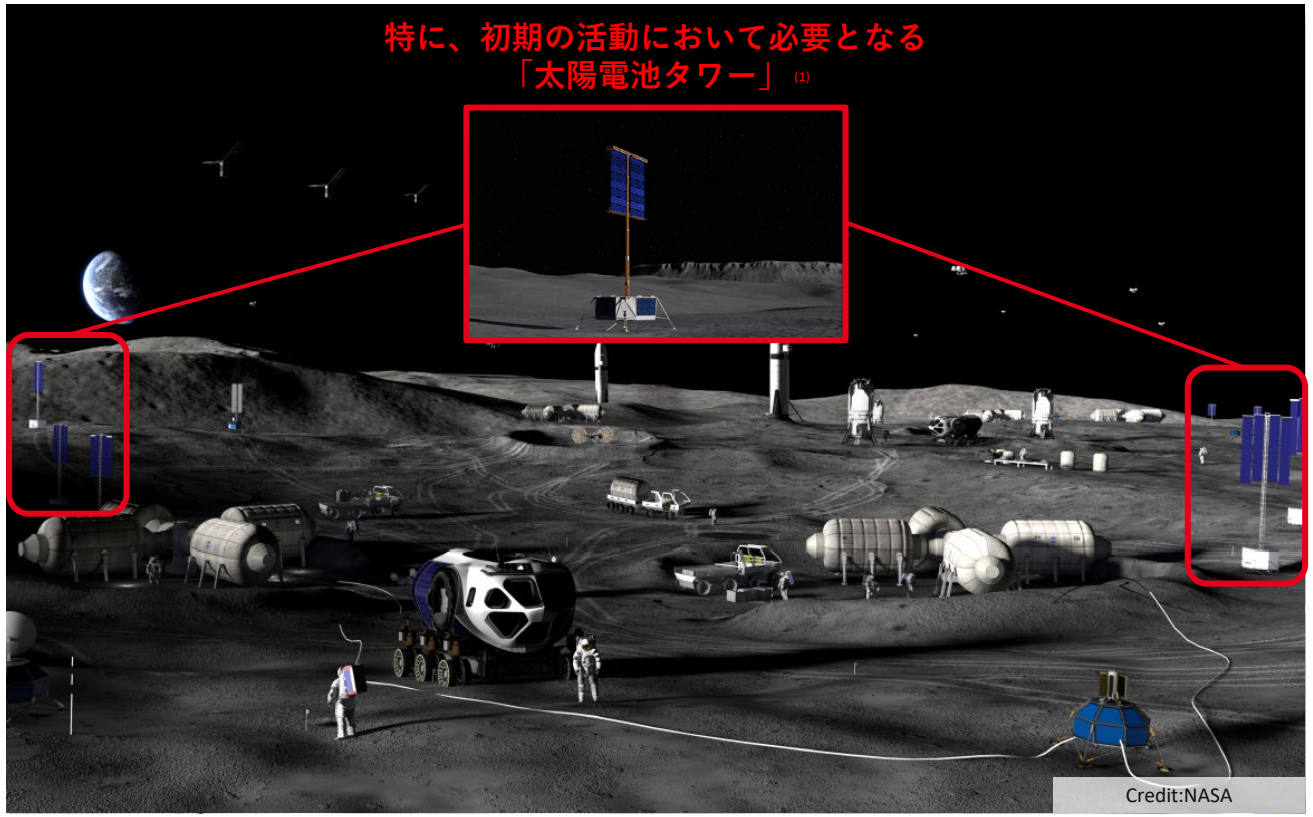

Credit:ESA

ESA加盟国は月面探査能力の強化の共通方針を支持、12月会合で具体化検討(4)

- ESA加盟国は「国際協力と重点分野での自律性確保」を柱とする月面探査の共通方針を支持（9月9日）。欧州独自の探査能力・インフラの強化に向け、12月15日の閣僚級会合で具体策を協議予定(4)
- ispace EUROPEとESAは、MAGPIEフェーズ2契約締結を記念した調印式の実施を発表（9月2日）。欧州初の月極域氷探査ローバーミッションを、2029年のMission 4で実施予定

(1) https://www8.cao.go.jp/space/comittee/dai124/siryou3-2.pdf
(2) https://www8.cao.go.jp/space/comittee/dai124/siryou3-1.pdf
(3) https://www.mext.go.jp/content/20260914-mxt_uchukai01-000051666_02.pdf
(4) https://www.esa.int/About_Us/Corporate_news/A_call_to_boost_European_space_exploration

JAXAによる「月面太陽電池タワーの概念設計」に選定。月探査及びランダー開発の知見を活かし、JAXAが最速2030年度の打上げを目指す月南極域の電力インフラ構築に参画

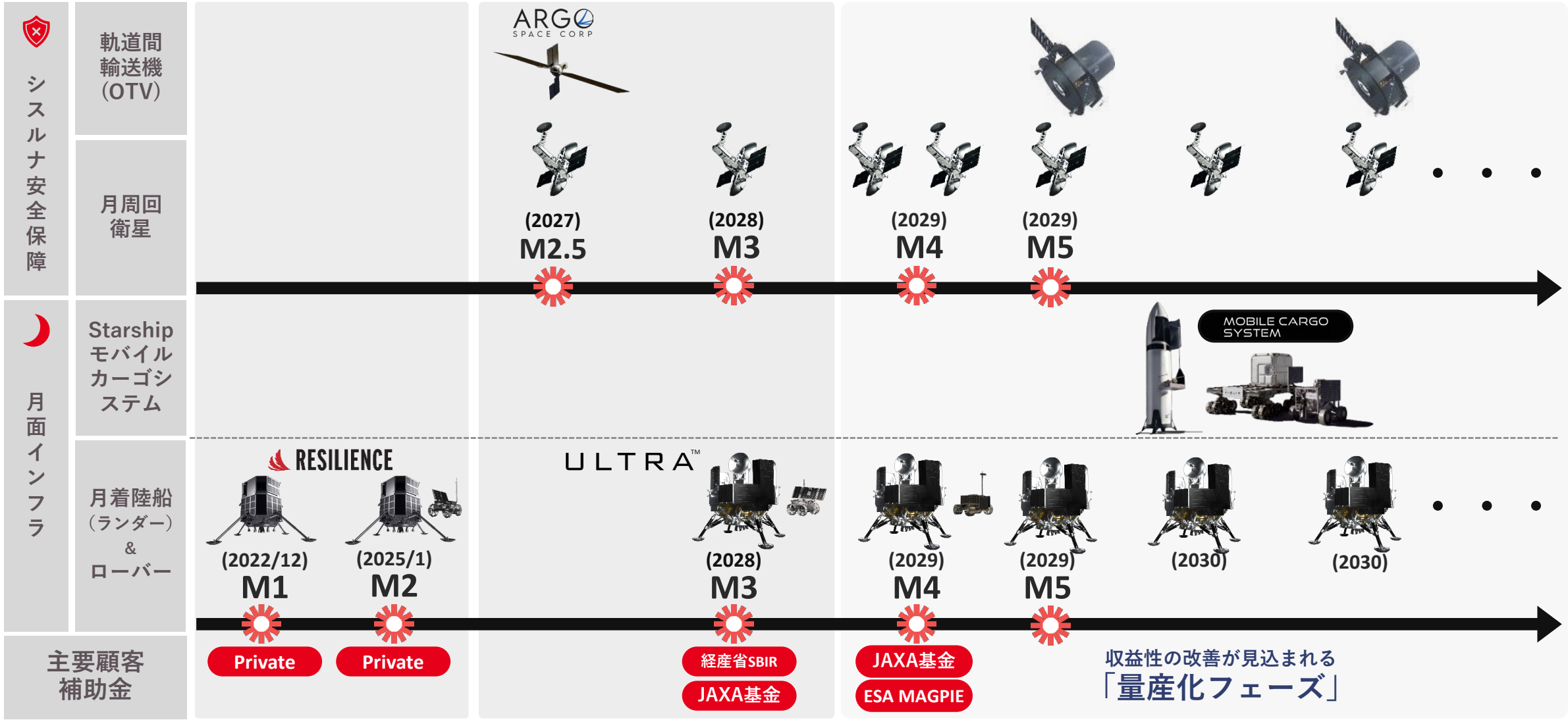


JAXAの「月面太陽電池タワーの実現に向けた概念設計」に選定(1)

- JAXAの企画競争「月面太陽電池タワーの実現に向けた概念設計」においてispaceが選定される
- 月面探査ミッション・ランダー開発で培った知見を活用し、パートナー企業とともに、電力供給システムやランダーとのインタフェース等の概念設計に取り組む予定
- JAXAは、月南極域での電力供給に向けたシステム要求・仕様およびプロジェクト計画を具体化し、最速で2030年度の打上げを目指す

(1) https://www8.cao.go.jp/space/comittee/27-kagaku/kagaku-dai71/siryou2.pdf
(2) 本件に関する詳細は2026/10/22公開のプレスリリースをご参照ください

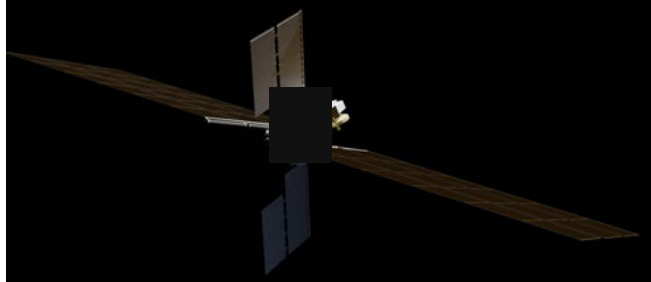
「シスルナ安全保障」対応・「月面インフラ」それぞれの領域でサービスを展開。継続的な月周回衛星の展開と、ランダー量産化による月面輸送ミッションの実施を通じて、事業拡大と収益性向上を目指す



月面開発の本格化とシスルナ安全保障を見据え、米国拠点で自社衛星を開発。Argo Space社と輸送契約を締結。M2.5で最速2027年に衛星1基を月周回軌道へ投入し、通信・SSAサービスの実証・事業化を先行して進める計画

最速2027年(1)他社輸送インフラを使用して打上げ予定

Mission2.5 Overview



使用するハードウェア

リレー通信衛星

- リレー通信衛星１基を月周回軌道上で展開予定
- 新規顧客へのデータサービス提供も計画
- サイズ：高さ1.6m、幅0.78m、長さ1.0m
- 重量：150kg

ミッション全体像

- 最速2027年にM2.5として自社月周回衛星1基の打上げを予定
- 月面開発の本格化に伴い通信やSSAのニーズが高まることを見込み、月周回の衛星ネットワークへの対応を急ぐ

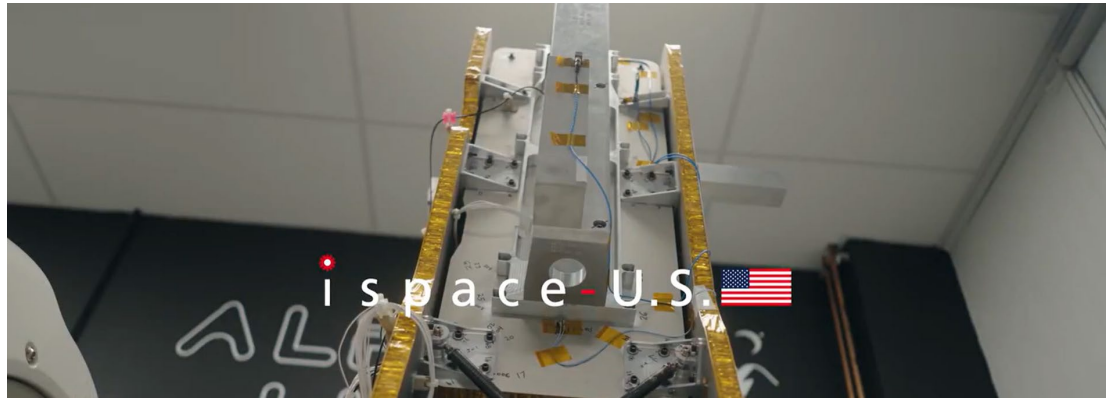
今後の見通し

- 2030年までに少なくとも５基の自社衛星を月周回軌道へ展開予定
- 通信・測位等を扱うルナ・コネクトサービスの検討に加え、観測・SSA（宇宙状況把握）等のデータサービスも視野
- 月周回衛星等を活用したサービス需要は、2040年代に少なくとも**年間4,500億円の市場**(2)を見込む

(1) 2026/11/13現在で想定しているミッション及びスケジュールであり、今後変更となる可能性があります
(2) 米国のコンセプト検討（Luna-10）の情報を元に参照した通信サービス（2040年代に想定される通信レート需要（Gbps）と想定単価）・測位サービス（2040年代に想定される測位ノード（ユーザー数）と想定単価）と、当社想定にて設定した観測・SSAサービス（2040年代に想定される本サービス提供に係る契約件数・単価）に基づき、当社試算

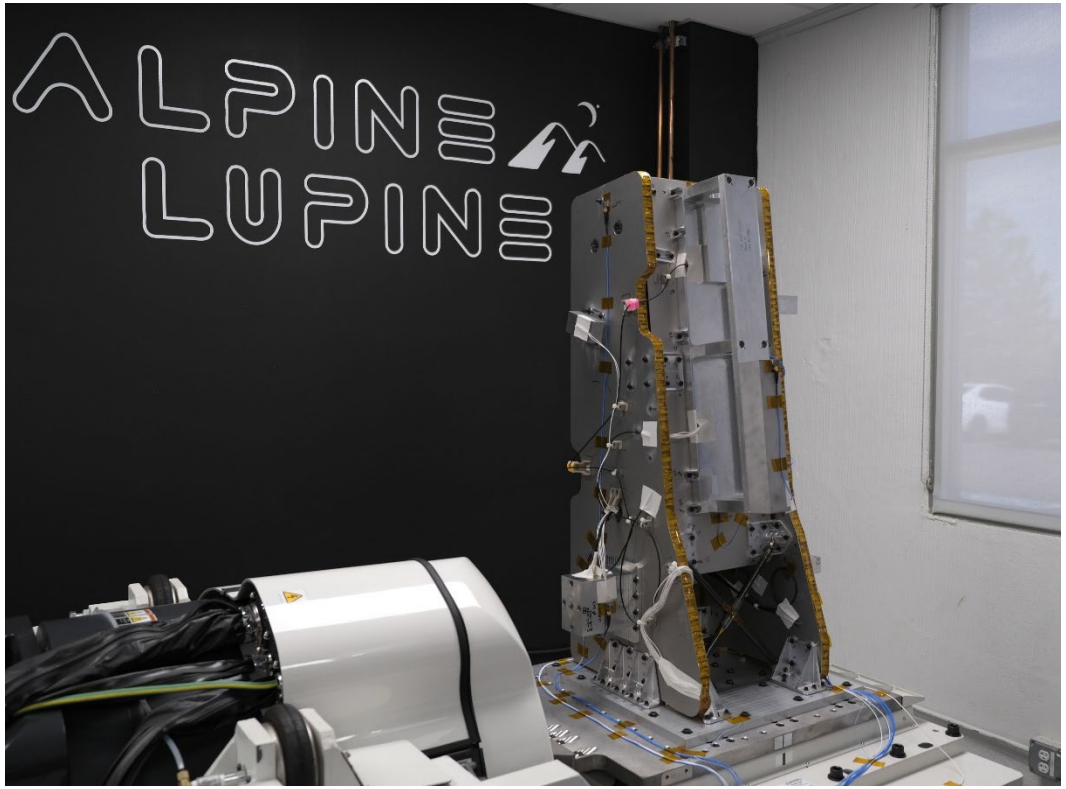
月の裏側との通信を支える中継衛星「アルパイン」の構造試験モデルを初公開。ispace-U.S.が通信機能の設計・製造・組立・試験を担い、月周回の通信ネットワーク構築に向けて開発を推進

Mission2.5





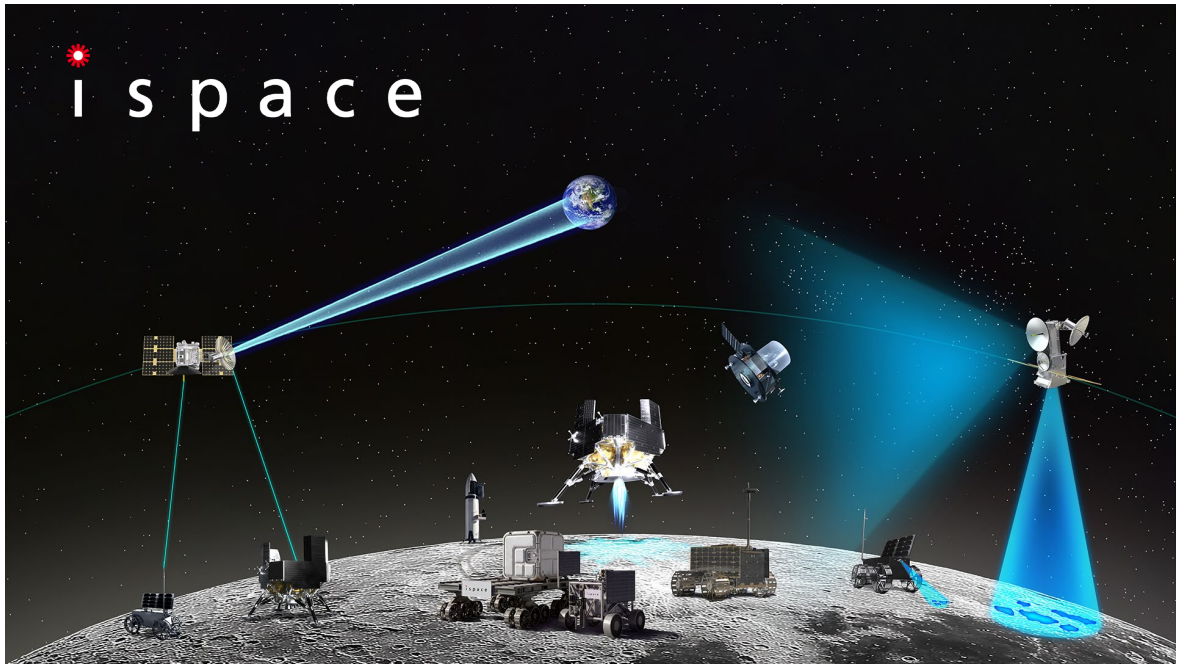




- アルパインは、月の裏側との通信を支えるため、月周回軌道への投入を計画する中継衛星の一つ
- ispace-U.S.は通信機能の設計・製造・組立・試験と、通信機能と衛星バス（電源・構造等を担う衛星の基盤部分）を合わせた全体設計を担当

KDDIと新たに基本合意書を締結。「シスルナ安全保障」への貢献を目指し、日本が主体的に運用できる月通信ネットワークの実現に向け、ispaceの「ルナ・コネクトサービス」とKDDIとの連携を拡大

Spark Your Journey
KDDI



- 「シスルナ安全保障」への貢献を目指し日本が主体的に運用できる月通信ネットワークの実現に向け、日本政府含む関係機関との連携・意見交換を推進
- 日本の月面・シスルナ活動を支える通信能力の確保に向け、ispaceの「ルナ・コネクトサービス」とKDDIが検討する地上局・月面モバイル通信・宇宙光通信などを組み合わせ、月面・シスルナ・地上をつなぐ通信網の構築とサービス共同提供に向けた技術開発・実証を検討
- 月通信ネットワークを支える人材・産業基盤の拡大に向け、山口県をはじめとする地域で、両社の技術・事業基盤を活用した地域・産業振興や人材育成、地域課題の解決に向けた施策を共同で検討

(1) 本件に関する詳細は2026/11/12公開のプレスリリースをご参照ください

2028年打上げ予定(1)

Mission3 METI SBIR Mission

M3 ミッション全体像

プロジェクト収益総額：187億円(3)

- 日本発の商業的月面輸送サービスの確立を目指す
- 経済産業省SBIR制度 上限**120億円**(3)
- 東京科学大 上限**47億円**(4)
- 他 合計20億円(3)：CDS、TASA、UEL、JALUX

衛星

- 通信衛星１基を月周回軌道上で展開予定



ローバー

- Mission 2の時から改良を加えたマイクロローバー+を搭載予定

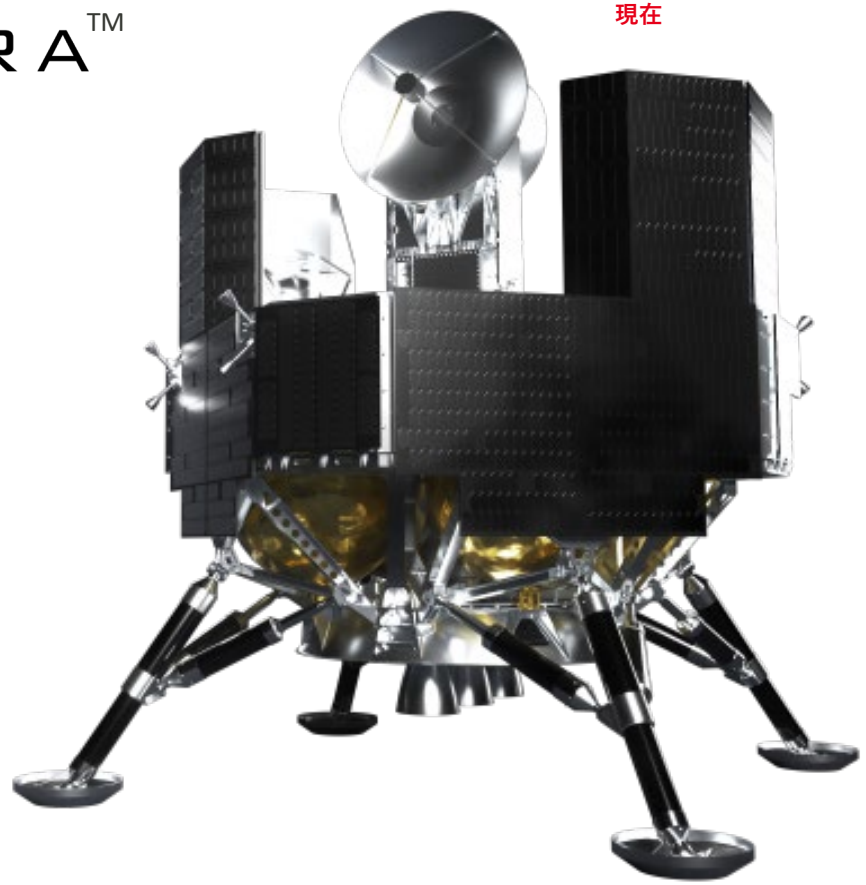


開発進捗

論理モデル	熱構造モデル	構造認定試験モデル	フライトモデル

エンジン変更に伴いPDR完了が遅延 — **PDR完了 2026/11 現在** — CDR完了予定 — 打上げ予定（2028）

ULTRA™



サイズ 高さ約3.6m　幅約3.3m	**重量（燃料装填時）** 約4.0t	**重量（無燃料時）** 約1.0t	**ペイロード重量** 最大200 kg

(1) 当初2027年内として経済産業省及びSBIR事務局と合意しておりましたが、足許、2026/11/13時点では当社内の開発計画上、2028年内の打上げとなることを見込んでおります。本変更については関係省庁及びSBIR事務局と調整中の段階であり、最終的には経済産業省の認可を受領の後正式に計画変更が認可されることとなります
(2) 2026/11/13現在で想定しているミッション及びスケジュールであり、今後変更となる可能性があります
(3) 契約金額の為替レートは、契約締結時点のTTMレートを使用しております。数値は表示桁未満を切り捨て。合計は切り捨て前の数値から算出
(4) 東京科学大学が採択された支援規模64億円のうち、同大学がJAXAに対して提出した提案に基づく当社受領金額の見込数値。ステージゲート評価等により金額が変動する場合があり、当該金額全額の契約締結を確約するものではありません
(5) 画像のデザインは今後変更の可能性があります

Q2は、エンジン変更を踏まえたULTRAの基本設計審査（PDR）が完了。Nammo・Ariane両社と推進系の継続調達に向けMOUを締結。安定した調達体制により、ミッション品質の安定・コスト低減を目指す



Q2進捗

推進系エンジン｜Nammo
月面着陸への貢献実績のあるエンジンの継続調達に向けMOUを締結

着陸フェーズの姿勢制御｜Ariane
当社M1/M2で実証済みのアシストスラスターの継続調達に向けMOUを締結

両MOUの狙い｜品質・コスト
継続調達による安定した開発体制を構築し、ミッション品質の安定・コスト低減を目指す

高度認識
実績ある部材への変更は確定。追加対策を具体化検討中

エンジン変更を踏まえ、ULTRAの基本設計審査（PDR）が完了し、次の開発フェーズへ移行

	確立済み				確立済み		未確立
Mission3 (2028)							
Mission2 (2025)	ハードウェア検証 ◎	軌道設計能力 ◎	運用の安定化 ◎	開発期間短縮 ◎	姿勢制御 ◎	速度制御(1) ◎	高度認識（ハードウェア） ✕
Mission1 (2023)	ハードウェア検証 ◎	軌道設計能力 ◎			姿勢制御 ◎	速度制御(1) ◎	高度認識（ソフトウェア） ✕
	月軌道到達				月面着陸		

(1) 月周回軌道からの離脱から最終降下フェーズまでの制御を指す。最終降下フェーズにおける高度・速度の計測及びそれに基づく制御は、ミッション1・2では未達

Mission3のULTRAについて、エンジン変更を反映したシステム全体のPDR(1)が完了し、開発進捗は順調

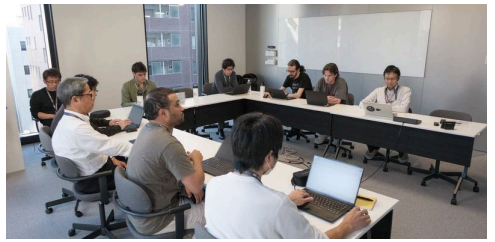
開発マイルストーン

PDR(1)

完了

基本設計審査の
完了により、
次の開発フェーズへ移行







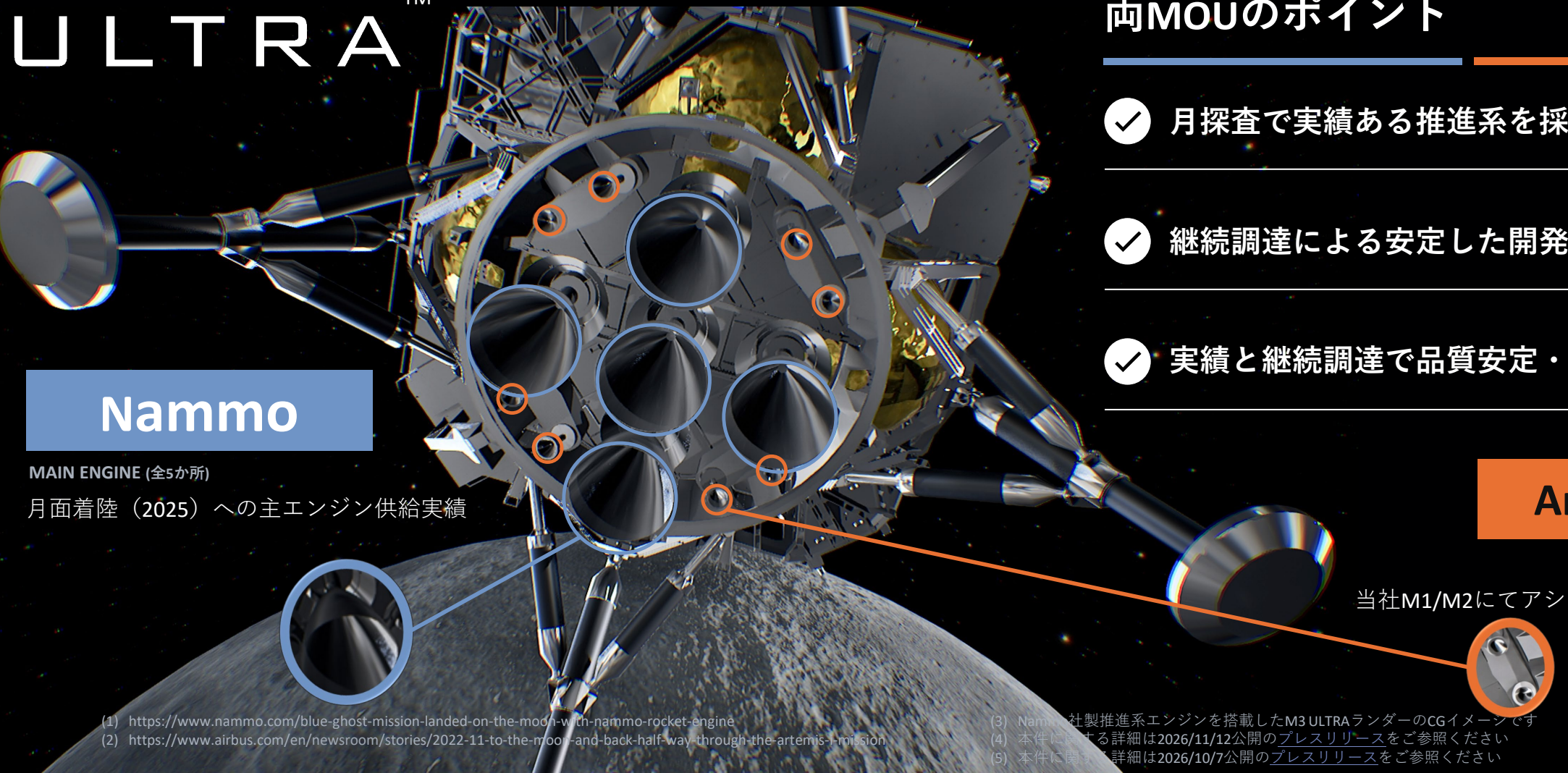




(1) Preliminary Design Review。仕様値に対する設計結果、設計検証計画の実現性を確認する審査会
(2) 本件に関する詳細は2026/11/13公開のプレスリリースをご参照ください

月面着陸の成功実績のあるNammo社製エンジンと、当社M1/M2で実証済みのAriane社製スラスターの継続調達に向け、両社とMOUを締結(4) (5)。部材の継続調達とミッション品質の安定、コスト低減を目指す

ULTRA™



両MOUのポイント

- ✓ 月探査で実績ある推進系を採用
- ✓ 継続調達による安定した開発体制の構築
- ✓ 実績と継続調達で品質安定・コスト低減

Nammo

MAIN ENGINE (全5か所)

月面着陸（2025）への主エンジン供給実績

ArianeGROUP

アシストスラスター (全8か所)

当社M1/M2にてアシストスラスター供給実績

(1) https://www.nammo.com/blue-ghost-mission-landed-on-the-moon-with-nammo-rocket-engine
(2) https://www.airbus.com/en/newsroom/stories/2022-11-to-the-moon-and-back-half-way-through-the-artemis-i-mission
(3) Nammo社製推進系エンジンを搭載したM3 ULTRAランダーのCGイメージです
(4) 本件に関する詳細は2026/11/12公開のプレスリリースをご参照ください
(5) 本件に関する詳細は2026/10/7公開のプレスリリースをご参照ください

2029年打上げ予定(1)

Mission4 JAXA SSF2 Mission

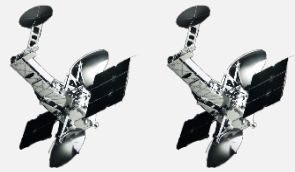
M4 ミッション全体像

プロジェクト収益総額：324億円(3)

- 月極域への高精度着陸を目指す
- JAXA宇宙戦略基金 上限200億円(2)
- MAGPIEフェーズ2 合計117億円(3)
- レスター大学 合計 6.5億円(3)

衛星

- 通信衛星２基を月周回軌道上で展開予定



ローバー

- MAGPIEプロジェクトとしてESA向けの小型ローバーを開発の上、輸送

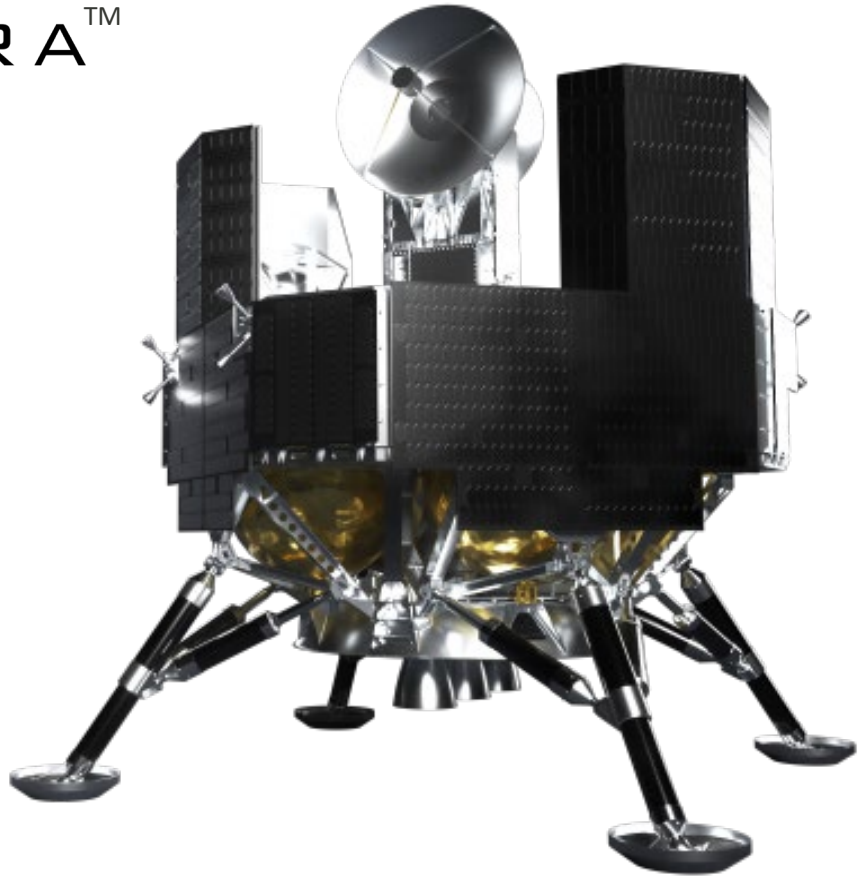


開発進捗

論理モデル | 構造モデル | フライトモデル

現在 | PDR完了予定 | CDR完了予定 | 完成・打上げ予定（2029）

ULTRA™



サイズ 高さ約3.6m　幅約3.3m	**重量（燃料装填時）** 約4.0t	**重量（無燃料時）** 約1.0t	**ペイロード重量** 最大200 kg

(1) 2026/11/13現在で想定しているミッション及びスケジュールであり、今後変更となる可能性があります
(2) 今後のステージゲート審査等により金額が変動する場合があり、現時点で全額を受領することを確約するものではありません
(3) 契約金額の為替レートは、契約締結時点のTTMレートを使用しております。数値は表示桁未満を切り捨て。合計は切り捨て前の数値から算出
(4) 画像のデザインは今後変更の可能性があります

既に契約済みの売上および補助金の合計（既にPL計上された額は除く）は、向こう4年間で少なくとも470億円、5年間で507億円の収益計上を見込む(1)。今期のプロジェクト収益は日本の2つの補助金がドライバーに

獲得済(5)/官需　獲得済(5)/民需　潜在的/官需(6)　（未計上額(3)）

顧客・案件	国	契約金額等(1)	CY2026 FY2027/3	CY2027 FY2028/3	CY2028 FY2029/3	CY2029 FY2030/3
打上タイミング					M3	M4 M5
M3 187億円 SBIR 月面ランダー開発		120億円	（約91億円）			
東京科学大学		約47億円(2)	（約46億円）			
TASA		約11億円	（約4.3億円）			
韓国UEL社		約3.9億円	（約3.5億円）			
JALグループ		約1.5億円	（約1.3億円）			
Control Data Systems SRL社		約2.9億円	（約2.9億円）			
M4 324億円 宇宙戦略基金 高精度着陸		最大200億円(4)	（200億円）			
MAGPIEフェーズ2		約117億円	（117億円）			
University of Leicester		約6.5億円	（約6.2億円）			
他 Magna Petra / ASI 他	-	約33億円	（約33億円）			
獲得済合計：M3/M4/他	-	**約544億円**	（約507億円）			
潜在的需要：覚書及び中間契約	-	-	潜在的需要 約857億円			

(1) 契約金額の為替レートは、契約締結時点のTTMレートを使用しております。数値は表示桁未満を切り捨て。合計は切り捨て前の数値から算出
(2) 東京科学大学が採択された支援規模64億円のうち、同大学がJAXAに対して提出した提案に基づく当社受領金額の見込数値。ステージゲート評価等により金額が変動する場合があり、当該金額全額の契約締結を確約するものではありません
(3) 未計上額は2026/11/13現在の数値です。なお、外貨建ての未計上額は、契約を締結している各社の直近の四半期決算日TTMレートにより円換算しております。ただし、換算後の金額が契約時の円換算額を上回る場合は、契約時の円換算額を採用しています。
(4) 今後ステージゲート審査等により金額が変動する場合があり、全額を受領することを確約するものではありません
(5) 2026/11/13現在、PSAを締結している顧客若しくは採択・予算確保等が確定している助成金を獲得済と表記
(6) 2026/9末時点のTTMレートを使用し換算。覚書及び中間契約は法的拘束力を有しないものであり、これらの覚書及び中間契約に基づき法的拘束力のある契約を締結できる保証はありません。また、仮に法的拘束力のある契約が締結されたとしても、当該契約に基づく金額は、本資料に記載された金額と異なる可能性もあります



03.

財務ハイライト

- 01. エグゼクティブサマリ
- 02. 事業ハイライト
- **03. 財務ハイライト**
- 04. Appendix

プロジェクト収益及び売上高の計上は通期予想に対して緩やかに進捗中。今後ミッション4の本格的な開発進捗開始に伴い、下期に収益計上が進む見込み。各段階利益は主に第1四半期における減損損失計上を背景として前年同期比下振れ

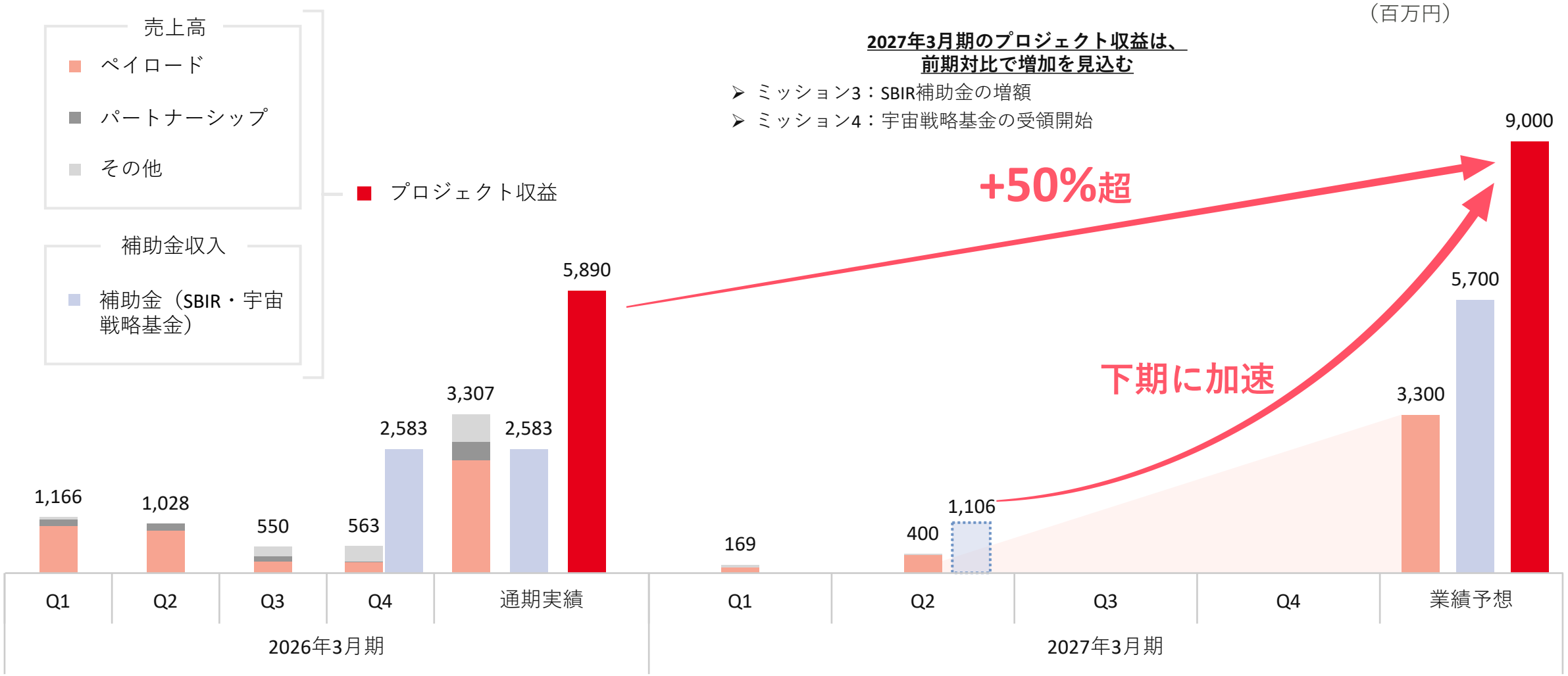
（単位：百万円）	2027年3月期 Q2累計	2026年3月期（前年度） 前期Q2累計	増減率	2027年3月期（予想） 通期予想	進捗率
プロジェクト収益(1)	1,675*	-	-	9,000	18.6%
売上高	569	2,193	△74.1%	3,300	17.2%
売上原価	5,776	1,811	218.9%	-	-
売上総利益	△5,207	382	-	-	-
売上総利益率	―	17.4%	-	-	-
販売管理費	3,646	4,545	△19.8%	11,700	31.2%
営業損益	△8,853	△4,162	-	△17,700	-
経常損益	△10,445	△4,459	-	△13,000	-
当期純損益	△10,451	△4,463	-	△13,000	-

Point: 前年同期・業績予想との比較

- **プロジェクト収益：**
  *第2四半期までに受領済みの約11億円の補助金を売上高に加えた試算値（実際の計上は年度末時点）。今期はミッション4の開発が進捗する下期以降、本格的な補助金受領が進む見通し
- **売上高：**
  前年同期比で減収。前期はミッション2及び旧ミッション5（CP-12）に係る売上を計上。今期はMAGPIEの契約を締結した9月以降、下期にミッション4の開発進捗に伴い本格的な売上計上が進む見通し
- **売上総利益：**
  前年同期比で減益。主な要因は、2026年3月に公表したランダーモデルの統合及びエンジン変更に伴う減損損失約37億円を、第1四半期に売上原価で計上したことによるもの
- **当期純損益：**
  上記の減損損失を主因として前年同期比で減益。
  なお、SBIR補助金及び宇宙戦略基金補助金収入については、今年度受領予定額を**第4四半期に営業外収益として一括計上**する見込み

(1)会計上の売上高に補助金収入を合計した当社試算値を「プロジェクト収益」としておりますが、補助金収入が会計上計上されるのは年度末になります

2027年3月期のプロジェクト収益は、日本ミッションであるSBIR補助金の受領増（ミッション3）と宇宙戦略基金の受領開始（ミッション4）を背景に下期に加速し、引き続き前年対比+50%超の増収を見込む



(1)第2四半期の補助金受領額（約11億円）は参考値として表示しており、損益計算書への計上は年度末を予定しています

開発関連費用は前年同期比25.1%減少。日本法人では主な費用区分が研究開発費（ミッション２）から売上原価（ミッション３）へシフトする一方、米国法人ではミッション終了に伴い売上原価が減少したことが原因

（単位：百万円）	2027年3月期 Q2実績	2026年3月期（前期） Q2実績	増減率
売上原価（減損除く）	**2,001**	1,811	10.5%
うち日本法人単体	**1,147**	**48**	**2,291.4%**
うち米国法人単体	**719**	1,764	△59.2%
研究開発費	**1,063**	2,279	△53.3%
うち日本法人単体	**227**	**1,443**	**△84.2%**
うち米国法人単体	**642**	580	10.8%
給料及び手当	**936**	939	△0.2%
その他	**1,646**	1,325	24.2%
販売管理費合計	**3,646**	4,545	△19.8%
開発関連費用合計(1)	**3,064**	4,090	△25.1%
うち日本法人単体	**1,375**	1,491	△7.8%
うち米国法人単体	**1,361**	**2,344**	**△41.9%**

(1) 売上原価（減損除く）と研究開発費の合算値

Point: 前年同期との比較

- **開発関連費用（売上原価＋研究開発費）：**
- **売上原価：**
  ミッション3以降の商業化フェーズへの移行に伴い、日本法人における主な費用区分が研究開発費から売上原価へ変化。これにより、日本法人の売上原価は前年同期比で大幅に増加
  一方、ミッションが終了した米国法人において、前年同期比、売上原価が大幅に減少
- **研究開発費：**
  ミッション2の終了に伴い、ミッション3以降は研究開発（R&D）フェーズから商業化フェーズへ移行。これにより日本法人の研究開発費は前年同期比で大幅に減少

金融機関への返済に伴う新規借入も漸次実施し、引き続き安定的な手元流動性を確保

（単位：百万円）	2027年3月期 Q2実績	2026年3月期 Q4実績	2026年3月期 増減率
流動資産合計	**27,714**	34,384	△19.4%
内現金及び預金	**22,585**	29,690	△23.9%
内短期前渡金	**4,416**	3,991	10.6%
固定資産合計	**12,816**	13,320	△3.8%
内有形固定資産	**7,671**	7,218	6.3%
内長期前渡金	**4,659**	5,515	△15.5%
（前渡金 合計）	**9,075**	9,506	△4.5%
資産合計	**40,530**	47,704	△15.0%
流動負債合計	**7,328**	5,696	28.7%
内前受金(1)	**2,259**	754	199.6%
内短期借入金	**3,901**	3,089	26.3%
固定負債合計	**27,471**	26,834	2.4%
内長期借入金	**26,987**	26,353	2.4%
（有利子負債 合計）	**30,888**	29,443	4.9%
負債合計	**34,799**	32,531	7.0%
純資産合計	**5,731**	15,173	△62.2%
負債・純資産合計	**40,530**	47,704	△15.0%

(1) 前受金と契約負債の合計値

Point: 前期末との比較

- **資産：**
- **現預金：**前年同様に足元で安定的な手元流動性を確保
- **前渡金：**減損損失約37億円計上により減少も、第2四半期を通じて、主にミッション3の調達に伴い増加

- **負債：**
- **前受金：** 主に上期中に受領した補助金（約11億円）を計上したことで増加（受領した補助金のPL上の収益認識は年度末を予定）
- **有利子負債：**9月に静岡銀行より30億円の新規借入を実施

- **純資産：** 第1四半期での減損損失約37億円の計上の影響もあり、純資産は減少。引き続き財務安定性の強化は課題事項

2027年3月期上期は、主にミッション３の開発の本格化によりフリー・キャッシュフローのマイナスが前年同期比で拡大。銀行からの新規借入等により一部を補填しつつ、引き続き安定的な手元流動性を確保

（単位：百万円）	2027年3月期Q2 実績	2026年3月期Q2 実績
営業キャッシュフロー合計	**△7,875**	△6,647
投資キャッシュフロー合計	**△643**	△826
フリー・キャッシュフロー	**△8,518**	△7,473
財務キャッシュフロー合計	**1,459**	14,785
内 株式発行による変動	**18**	26
内 長期借入による変動	**943**	14,259
内 短期借入による変動	**499**	500
現金等の換算差額	**△46**	△351
現金等の増減額	**△7,105**	6,960
現金等の期末残高	**22,585**	20,078

Point: 前年同期との比較

- **営業キャッシュフロー：**
  主にミッション3の開発進捗に伴う前渡金の支払いにより、前年同期比でマイナス幅が拡大
- **投資キャッシュフロー：**
  米国での主にミッション2.5で活用するリレー衛星の開発等に伴う有形固定資産の取得を計上
- **財務キャッシュフロー：**
  2027年3月期上期において、金融機関への返済を進める一方で、朝日信金及び静岡銀行から計40億円の新規借入を実施。前年は150億円の大型借入を実施したことから、前年同期比で減少

9月、静岡銀行より30億円（長期借入金）の新規借り入れを実施



静岡銀行からの資金調達

- 借入金額：**30億円**
- 期間：3年
- 資金使途：運転資金
- 返済方法：期日一括返済
- 担保・保証：無担保・無保証

(1) 本件に関する詳細は2026/9/9公開の適時開示をご参照ください

ispace



Never Quit the Lunar Quest

IRに関するお問い合わせ: ir@ispace-inc.com



04.

Appendix

- 01. エグゼクティブサマリ
- 02. 事業ハイライト
- 03. 財務ハイライト
- **04. Appendix**

日本と海外のマネジメントチーム体制で、2030年に向けた成長を日米欧・中東で着実に実行



CPO
最高人事責任者
今村 健一

取締役CFO & Executive Business Director
最高財務責任者 兼 事業統括エグゼクティブ
野﨑 順平

代表取締役CEO
最高経営責任者
袴田 武史

ispace U.S.
CEO
Elizabeth Kryst

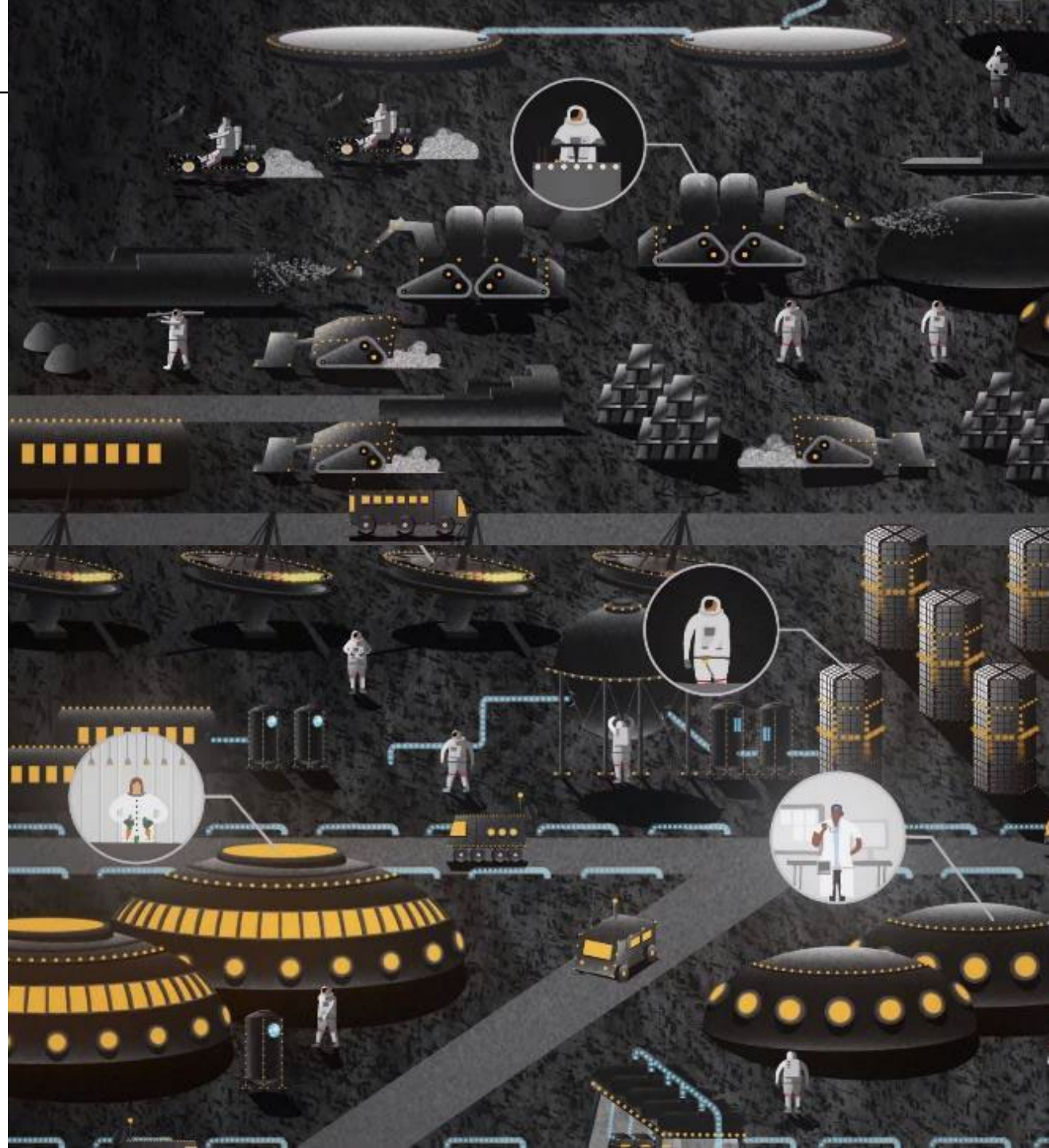
ispace EUROPE
CEO
Julien Lamamy

CTO
最高技術責任者
氏家 亮

Why the Moon? – OUR VISION

EXPAND OUR PLANET.
EXPAND OUR FUTURE.

地球と月がひとつのエコシステム
となる世界を築くことにより、
月に新たな経済圏を創出する



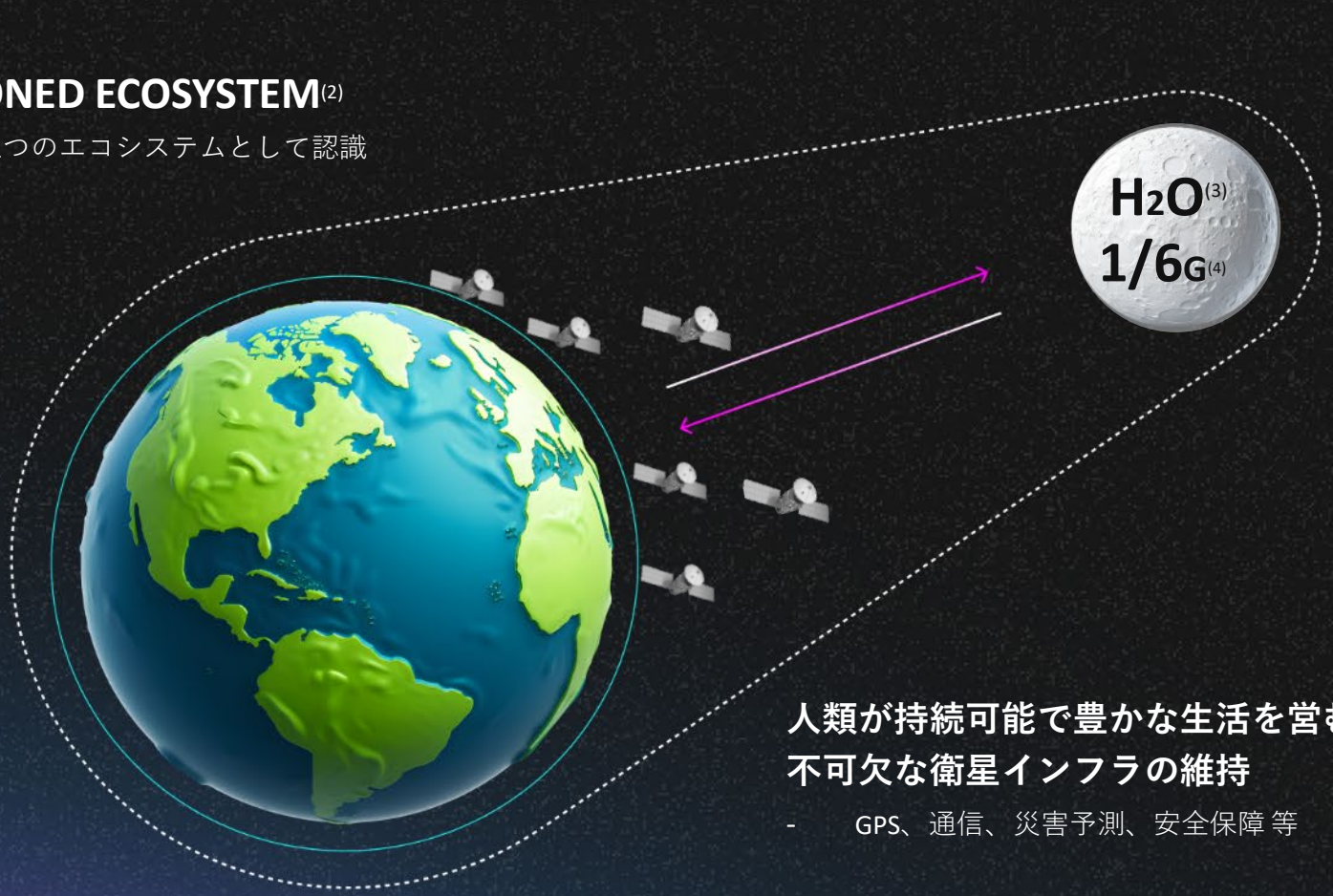
“Moon Valley 2040” concept

月に存在する水資源を中心に、建設・製造・エネルギー・通信など
様々な業界により月面のインフラが確立され、2040年代には1,000人
が月面に居住し年間10,000人が月に訪れる世界観を構想

月面には大量の水(1)が存在すると推定され、月を、水から生まれる燃料の「供給基地」として活用することで、地球の生活にベネフィットをもたらす可能性が検討される

ENVISIONED ECOSYSTEM(2)

地球と月を1つのエコシステムとして認識



低コストかつ高頻度な深宇宙エリアへのアクセスの実現

- 深宇宙の探査による新たな資源価値の発見 等

人類が持続可能で豊かな生活を営む上で不可欠な衛星インフラの維持

- GPS、通信、災害予測、安全保障 等

(1) https://science.nasa.gov/moon/moon-water-and-ices/
(2) 画像はイメージです。
(3) 注(1)に引用した研究によると、水は月面に広く分布している可能性があり、レゴリスから抽出した水を電気分解して水素と酸素を分離し、将来の深宇宙探査の燃料源として利用できる可能性があります。
(4) 月は地球の1/6の重力しかないため、月の打上げコストは理論上、地球より低くなります。

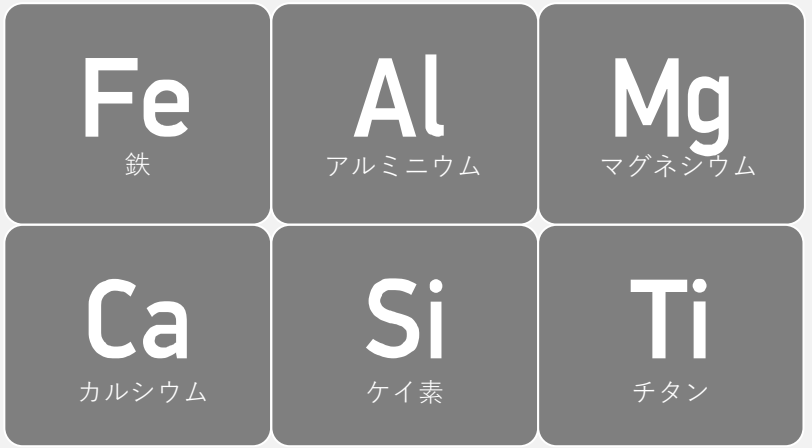
月面には多様な希少金属が存在する可能性があり、中でも米国エネルギー省は、将来的に民間事業者により月から採掘されるヘリウム3の購入(1)を契約するなど、商業化の動きが始まる

ヘリウム3への注目の高まり



- 市場単価22百万円/g(2)(3)と見積もられるヘリウム3は、自然状態では地球上にごくわずかしか存在しない一方、月面では1.1百万トン(4)（市場価格約2,424京円(3)(5)）も存在すると推測されている
- ヘリウム3は量子コンピューターの冷却用途としての需要に加え、核融合反応を利用したエネルギー源としての可能性を秘める(2)
- 2025/5には米国エネルギー省が、民間事業者により将来的に採掘されるヘリウム3の購入に同意する初の事例が誕生(1)

多様な種類の希少金属(6)



- 多様な種類の希少金属が月面には存在する可能性が指摘されている
- 地球に持って帰る活用だけでなく、月面インフラの建設用資材など、月面での活用も期待される

(1) https://energynews.pro/en/united-states-signs-historic-agreement-for-helium-3-extracted-from-the-moon/
(2) https://thequantuminsider.com/2025/09/17/bluefors-enters-deal-to-secure-lunar-helium-3-supply-from-interlune/
(3) 2025/8末時点のTTMレートを使用し円換算。
(4) https://balerionspace.substack.com/p/the-helium-3-imperative
(5) 市場単価22百万円/gに1.1百万トンを乗じた単純計算によって算出。
(6) Popular Science (https://www.popsci.com/elements-mine-on-the-moon/), European Space Agency (https://www.esa.int/Enabling_Support/Preparing_for_the_Future/Space_for_Earth/Energy/Helium-3_mining_on_the_lunar_surface)

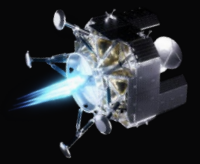
外部の打上げベンダーを利用し、打上げたランダーは自力で月へ航行し、着陸後は顧客ペイロードの展開を行い、ランダー及びローバーによって月面データを調査、取得する

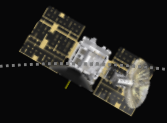
外部の打上げベンダーによる打上げ

当社ランダーの自力航空で月周回軌道/月面まで顧客ペイロードを輸送





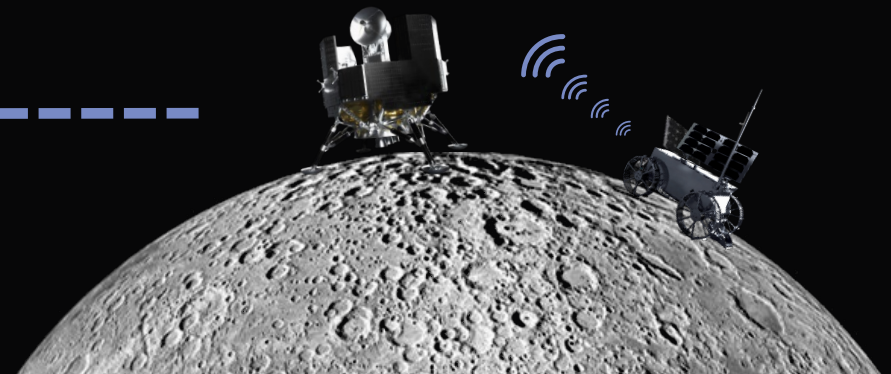






顧客ペイロードの展開、
ランダー、ローバー及び衛星による
月面データの調査、取得

データフィードバック、販売



(1) 上記は当社のミッションの内容を示すためのイメージ図となります。

ispace

シスルナ サービス

ルナ・コネクトサービス | ペイロードサービス | データサービス

通信サービス

月面および月周回軌道の広範囲において、月面、月－月周回、および月－地球の安定かつ高速の通信機能を提供するサービス。

ペイロードサービス

月着陸船を活用し、お客様のペイロードを月周回軌道や月面へ輸送し、運用するサービス。また、月面探査車による月面上の移動サービスを提供することで、ミッションの活動範囲を拡大する。

SSAサービス

月面・月周回・宇宙空間を一定期間、観測・監視し、空間中の物体の存在やその大きさ・種類・軌道・運用状況等を分析し、そのデータを提供するサービス。

測位サービス

月面で活動する様々なペイロードに対して一定精度の位置情報（緯度・経度・時間等）を提供するサービス。

観測サービス

月の所定の場所を撮影、または一定期間継続的に観測し、そのデータを提供するサービス。

As of Sep 2026

（2022年実施済）

Mission 1 Overview

ミッション概要

- 2022年、**営利企業として初の月着陸船**の打上げに成功

技術的な成果

- **大部分のランダーハードウェアの実証に成功**
- 最終的な月面軟着陸に至らなかった要因はソフトウェア上の問題。2023年時点で既に原因を解明し、ミッション2に向けた改善を実施

持続可能なビジネスモデルの実証

- 軟着陸の失敗によるペイロード顧客への**返金は発生せず**。ミッション1完了後も、新規顧客及び既存顧客からの引き合いが継続中
- **世界初の月保険**をパートナー企業と共に組成し、2023年8月に37億円(1)の保険金を受領

使用したハードウェア



（旧）Series 1ランダー

- サイズ：高さ約2.3m、幅約2.6m (着陸脚を広げた状態)
- 重量：約1,000kg (Wet: 燃料装填時)、約340kg (Dry: 無燃料時)
- ペイロード積載可能容量：最大30kg

ペイロード顧客 確定済

総売上金額：**11億円**(2)

Niterra　مركز محمد بن راشد للفضاء MOHAMMED BIN RASHID SPACE CENTRE　JAXA

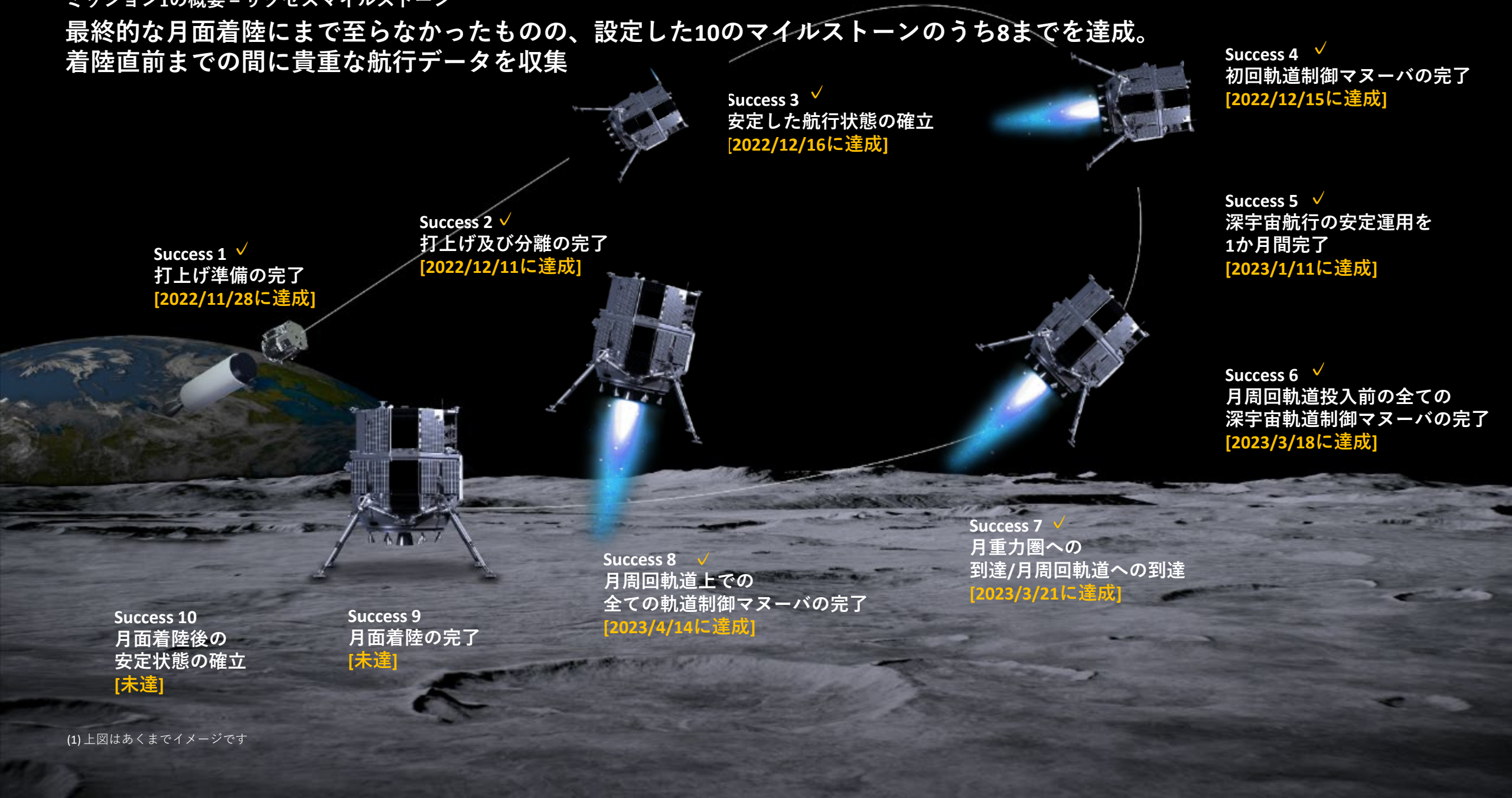
（ロゴ左上から。カナダの2社はロゴなし）

- 民 日本特殊陶業：固定電池
- 官 MBRSC：月面探査ローバー
- 官 JAXA：変形型月面ロボット
- 民 Mission Control Space Services：AIのフライトコンピュータ
- 民 CanadensysAerospace：カメラ

(1) 数値は小数点以下切り捨て。
(2) 売上高として計上した金額の累計。数値は小数点以下切り捨て。総契約金額$10MMのうち、約$0.7MMが着陸未達により受領できず、当該額は売上不計上。

ミッション1の概要 – サクセスマイルストーン

最終的な月面着陸にまで至らなかったものの、設定した10のマイルストーンのうち8までを達成。着陸直前までの間に貴重な航行データを収集



Success 1 ✓
打上げ準備の完了
[2022/11/28に達成]

Success 2 ✓
打上げ及び分離の完了
[2022/12/11に達成]

Success 3 ✓
安定した航行状態の確立
[2022/12/16に達成]

Success 4 ✓
初回軌道制御マヌーバの完了
[2022/12/15に達成]

Success 5 ✓
深宇宙航行の安定運用を
1か月間完了
[2023/1/11に達成]

Success 6 ✓
月周回軌道投入前の全ての
深宇宙軌道制御マヌーバの完了
[2023/3/18に達成]

Success 7 ✓
月重力圏への
到達/月周回軌道への到達
[2023/3/21に達成]

Success 8 ✓
月周回軌道上での
全ての軌道制御マヌーバの完了
[2023/4/14に達成]

Success 9
月面着陸の完了
[未達]

Success 10
月面着陸後の
安定状態の確立
[未達]

(1) 上図はあくまでイメージです

（2025年実施済）

SMBC × HAKUTO-R VENTURE MOON

Mission2 Overview

使用したハードウェア



RESILIENCE

- サイズ：高さ約2.3m、幅約2.6m (着陸脚を広げた状態)
- 重量：約1,000kg (Wet: 燃料装填時)、約340kg (Dry: 無燃料時)
- ペイロード積載可能容量：最大30kg



TENACIOUS™

- デザイン：軽量かつロケット打上げ時等の振動に耐える頑丈性を実現
- 重量：約5kg
- ペイロード積載可能容量：最大1kg

ミッション概要

- 月面着陸と月面探査に係る技術検証を企図したR&Dミッション
- 最終的な月面着陸は未達となるも、月周回軌道までの確かな輸送能力を実証
- 着陸未達の要因はレーザーレンジファインダー（以下LRF）のハードウェア異常
- 当該LRF含む着陸センサの見直しやJAXAからの技術支援拡張も含め、後続ミッションへの更なる改善反映に取り組む
- ペイロード契約においては、計上できる売上が2億円減少し総額19億円となるも、返金・損害賠償等は発生せず、着陸未達による財務インパクトは限定的
- 当社**初のデータサービス売上 23百万円**を2026年3月期Q1で計上

ペイロード顧客 確定済

総売上金額：**19億円**(1)

高砂熱学　ユーグレナ　BANDAI NAMCO

（ロゴ左上から）

- 民 高砂熱学工業：月面用水電解装置
- 民 ユーグレナ：藻類栽培装置
- 学 台湾国立中央大学：放射線量計
- 民 バンダイナムコ研究所：“宇宙世紀憲章”プレート
- 民 ミカエル・ゲンバーグ氏：ムーンハウス（アート作品）

(1) 売上高として計上した金額の累計。数値は小数点以下切り捨て。総契約金額21億円のうち、2億円が着陸未達により受領できず、その分が売上減少。

ミッション2 マイルストーン

ispace

Success 9のフェーズ4(1)を完了し、ランダーは
垂直姿勢を確立した状態で降下を続けたものの、
着陸予定時刻の約2分前にテレメトリが途絶（月面衝突）

(1) Success 9は6つのフェーズに分かれており、フェーズ4は減速噴射及び姿勢変更フェーズ



▶ **Success 1** ✓
打ち上げ準備の完了
2025/1/14 完了

▶ **Success 2** ✓
打ち上げ及び分離の完了
2025/1/15 完了

▶ **Success 3** ✓
安定した航行状態の確立
2025/1/15 完了

▶ **Success 4** ✓
初回軌道制御マヌーバの完了
2025/1/17 完了

▶ **Success 5** ✓
月フライバイの完了
2025/2/15 完了

▶ **Success 6** ✓
LOI前のすべての
深宇宙軌道制御マヌーバ
の完了
2025/4/24 完了

▶ **Success 7** ✓
月周回軌道への到達
2025/5/7 完了

▶ **Success 8** ✓
月周回軌道上での
すべての軌道制御マヌーバ
の完了
2025/5/31 完了

▶ **Success 9**
月面着陸の完了
未完

▶ **Success 10**
月面着陸後の
安定状態の確立
未完

HAKUTO-R

※記載内容は変更となる可能性があります

ミッション1同様、着陸フェーズにおける高度認識に課題を残す結果となったものの、その技術的要因はミッション1と異なり、変更パーツにおけるハードウェア上の問題が発生

	ミッション1（2022年打上げ）	ミッション2（2025年打上げ）
使用ランダー	 RESILIENCE	• R&Dミッションであるミッション1とミッション2を通じて同モデル（RESILIENCEランダー）を活用 • ミッション1ではハードウェアが問題なく機能していたことを実証済み • 旧サプライヤーの製造停止を受け、レーザーレンジファインダー（以下、LRF）のみ、ハードウェアをミッション1から変更
サクセスマイルストーン	• 10個のサクセスマイルストーンの内、Success 8（月周回軌道上でのすべての軌道制御マヌーバの完了）まで成功。以降は未達	
問題個所	• 高度認識に関する問題であったことは共通。**その技術的要因はミッション1と2でそれぞれ異なる（ミッション1の問題は解決済み）**	
技術的要因	• **ソフトウェア**（降着制御系アルゴリズム）に問題 • 着陸点の手前で5kmの急激なクレータ（崖）があることをアプローチパス上の地形とソフトウェアの検証へ取り込むことが十分にできていなかった	• **ハードウェア**（測距計のセンサであるLRF）に問題 • 想定されていた高度で機能せず、LRFによる高度測定に遅れが発生 • 降下時のLRF性能が事前の想定を下回った可能性や、航行中にLRFが故障・性能劣化した可能性等
結果的に生じた事象	• ランダーはクレータによる想定外の高度変化をセンサ異常と判断し採用せず、高さ5kmでホバリング。最終的には燃料が尽き月面へ落下	• LRFによる有効なデータの取得タイミングが遅れた結果、十分な減速が間に合わず、最終的に月面にハードランディングしたと考えられる

ispace-U.S.は、約15社の候補企業の中から、NASAの評価プロセスを経て「CLPS 2」(1)のIDIQ(3)契約先8社のうちの1社として選定

応募企業	選定結果
ispace-U.S.（新規）	Selected
Northrop Grumman（新規）	Selected
Voyager Technologies	Selected
Intuitive Machines	Selected
Firefly Aerospace	Selected
SpaceX	Selected
Lockheed Martin Space	Selected
Blue Origin	Selected
⋮	⋮
⋮	⋮
⋮	⋮
⋮	⋮
⋮	⋮
⋮	⋮
⋮	⋮

NASA技術評価

Acceptable

NASAの技術評価基準を満たし、採択に至った

8 /約15

CLPS 2の採択企業に選定

(1) https://www.nasa.gov/news-release/nasa-awards-moon-base-transportation-technology-science-projects
(2) 本件に関する詳細は2026/11/9公開のプレスリリースをご参照ください
(3) IDIQ（Indefinite Delivery/Indefinite Quantity）：NASAが事前に選定した企業と結ぶ契約方式。契約先は、契約期間中にNASAが随時発注する個別案件（タスクオーダー）に応札できます。発注の数量や時期は決まっておらず、選定されても個別案件の受注が保証されるわけではありません

月探査は米中を中心に活発化、“経済安全保障”観点で月へのアクセスの確立と拠点構築が論点に


Credit: The white house

大統領令で月面基地原型・原子炉建設を明言

- 2025年12月に調印された新大統領令により2028年までの有人月面ミッション・2030年までの月面用原子炉の実現が明言される(1)
- 米国政府は民間主導の月面拠点構築や資源開発を強力に後押しし(1)、米国市場での月面ビジネス需要が増加すると見込まれる

米国

1972		アポロ計画：アポロ17号のミッションを最後に終了(2)
2018	民間	民間企業による月面輸送サービスをNASAが購入するCLPSプログラムが開始(4)
2022		アルテミスI：無人宇宙船を打上げ、地球へ帰還(3)
2024	民間	Astrobotic、Intuitive Machinesが打上げ(4)
2025	民間	Firefly、Intuitive Machinesが打上げ(4)
2026		アルテミスII：アルテミス計画で最初の有人飛行試験成功(5)
2026		NASAが月面基地構想 Ignitionを発表(6)、CLPS 2も始動(7)
2027		アルテミスIII：アルテミス計画で有人地球低軌道実証予定(8)
2028		アルテミスIV：アルテミス計画で初の有人月面着陸を予定(9)

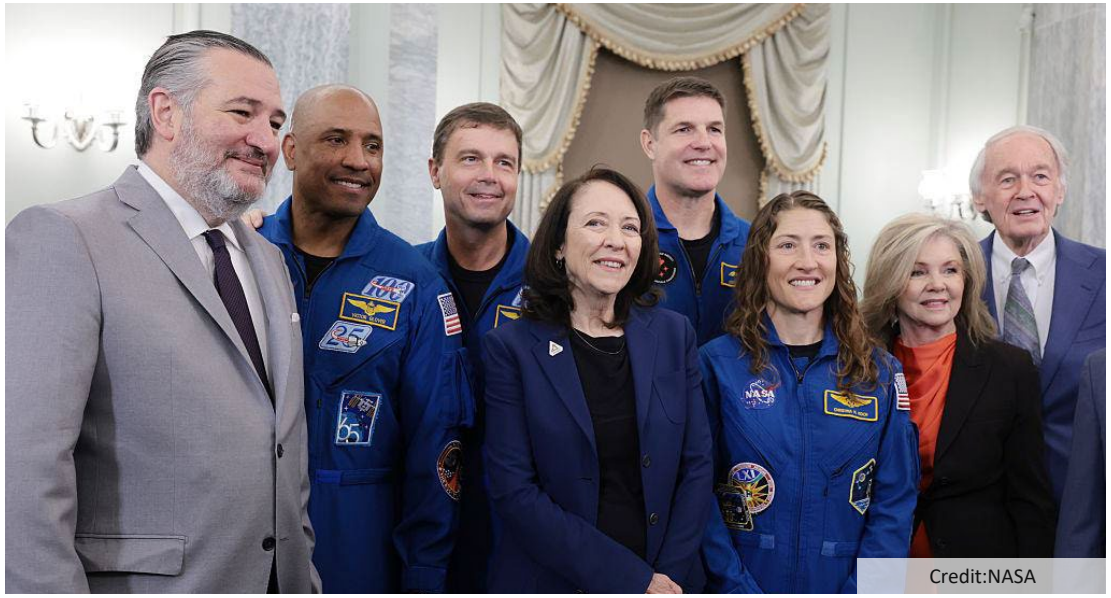
中国

2007	嫦娥1号：月周回衛星を打上げ、地形や地質データの取得に成功(11)
2010	嫦娥2号：月軌道への投入、小惑星へのフライバイ飛行に成功(12)
2013	嫦娥3号：近月面へ無人軟着陸し、月面探査車の展開に成功(10)
2019	嫦娥4号：月の裏側へ初の軟着陸と探査に成功(10)
2020	嫦娥5号：初の月の表側のサンプルリターンに成功(10)
2024	嫦娥6号：初の月の裏側のサンプルリターンに成功(10)
2027以降	嫦娥7号：月面南極域に着陸して水資源探査を行うことを計画(13)
2028以降	嫦娥8号：月面資源の利用や月面基地建設技術の検証を計画(13)

(1) https://www.whitehouse.gov/presidential-actions/2025/12/ensuring-american-space-superiority/
(2) https://www.nasa.gov/mission/apollo-17/
(3) https://www.nasa.gov/mission/artemis-i/
(4) https://www.nasa.gov/reference/commercial-lunar-payload-services/
(5) https://www.nasa.gov/mission/artemis-ii/
(6) https://www.nasa.gov/ignition/
(7) https://www.nasa.gov/news-release/nasa-awards-moon-base-transportation-technology-science-projects
(8) https://www.nasa.gov/mission/artemis-iii/
(9) https://www.nasa.gov/mission/artemis-iv/
(10) https://www.mext.go.jp/content/20250416-mxt_uchukai01-000041775_5.pdf
(11) https://www.eoportal.org/satellite-missions/chang-e-1#mission-status
(12) https://www.eoportal.org/satellite-missions/chang-e-2#change-2-lunar-2-mission-of-china--ce-2
(13) https://www8.cao.go.jp/space/comittee/27-kagaku/kagaku-dai72/siryou2-2p.pdf

米国では、商業月面輸送プログラム「CLPS」と恒久的月面基地「Moon Base」の整備を超党派で推進。2026年にはCLPSの強化や月面基地構想を含むNASA関連法案が、上下院の委員会でそれぞれ可決


Andrew Harnik / Getty Images撮影


Credit:NASA

商業月面輸送プログラム「CLPS」は共和党・民主党の超党派で支持(1)

- 2026年2月、共和党バビン議員（写真右）と民主党ロフグレン議員（写真左）が主導したNASA授権法案が、下院委員会で賛成37・反対0で可決(1)
- 民主党スティーブンス議員が提出した、CLPSの法的根拠を強化し、月面経済の発展を支援する修正案も可決(1)

恒久的月面基地の建設は共和党・民主党の超党派で推進(2)

- 2026年3月、共和党クルーズ議員（写真左）と民主党キャントウェル議員（写真右）が、恒久的月面基地の建設を盛り込んだNASA授権法案を共同で推進(2)
- 共和党モラン議員、民主党ダックワース議員らも参画し、上院商務委員会で全会一致で可決(2)

(1) https://science.house.gov/markups?ContentRecord_id=FF6B5E53-D99B-49CB-A383-C06DCCFE1EE5

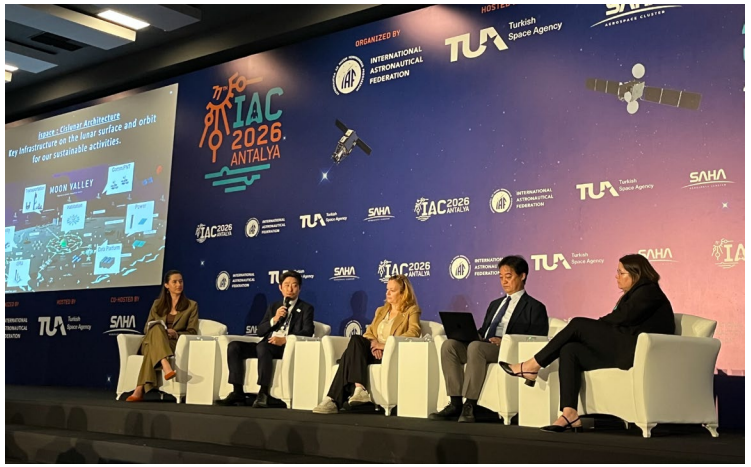
(2) https://www.govinfo.gov/content/pkg/CHRG-119shrg64619/html/CHRG-119shrg64619.htm

トルコ開催のIAC出展、会期間中に欧州複数企業と将来の月ミッションに向けた連携を推進



独アリアングループとのMOU締結(1)

- ULTRAランダーの推進系部品供給と組立・統合・試験（AIT）サービスで協力する覚書を締結
- 継続的な打上げに向けた長期商業契約や、将来の月ミッションでの協業拡大を検討



トルコ開催のIAC 2026への出展(2)

- 2026年10月、トルコ・アンタルヤで開催された宇宙関連国際会議「IAC 2026」に出展
- 世界各国の月面探査を支えるローバーやロケット、人工衛星の開発企業が多数出展



軌道間輸送に向けLeonardo・TelespazioとMOU締結(3)

- 10月6日、Leonardo・Telespazioと月探査分野の協業に向けたMOUを締結。
- 当社OTVによるESA「Moonlight」衛星の月周回軌道への輸送を検討（合計2-3トンの衛星 ※約400-600kgの衛星計5基）

(1) 本件に関する詳細は2026/10/7公開のプレスリリースをご参照ください
(2) https://www.iac2026.org/iac-2026
(3) 本件に関する詳細は2026/10/7公開のプレスリリースをご参照ください

ULTRAランダー試験モデル見学会、エミン氏との対談動画、IRイベントへの出展を通じ、株主・投資家との多様な接点を創出。 月面開発に向けた中長期的な株主・投資家との関係構築を推進



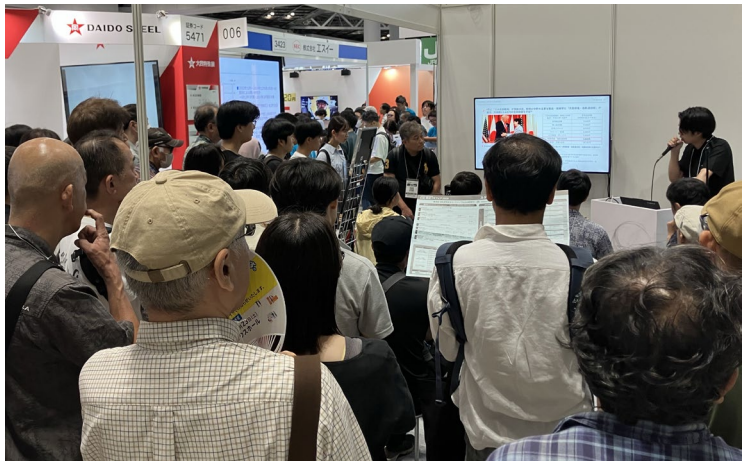
ULTRAランダー試験モデル見学会を実施(1)

- 株主優待制度として、8月11日にULTRAランダー試験モデル見学会を実施し、午前及び午後の部含め約40名の方が参加
- 取締役CFO兼事業統括エグゼクティブ 野﨑より事業説明をした後、 EVP日達よりULTRAランダーの構造や特徴をご説明



袴田CEOとエミン・ユルマズ氏と対談動画を公開(2)

- 袴田CEOが楽待チャンネルに出演し、エコノミストのエミン・ユルマズ氏と対談
- 8月16日に動画を公開し、21万再生を超え、弊社の認知度向上に貢献



日経・東証IRフェア2026に出展(3)

- 8月28日及び29日に東京ビッグサイトで開催された「日経・東証IRフェア2026」に出展
- 2日間にわたり対面型説明会を複数回実施し、全回満席となるなど、個人投資家の皆様との直接的な対話の機会を創出

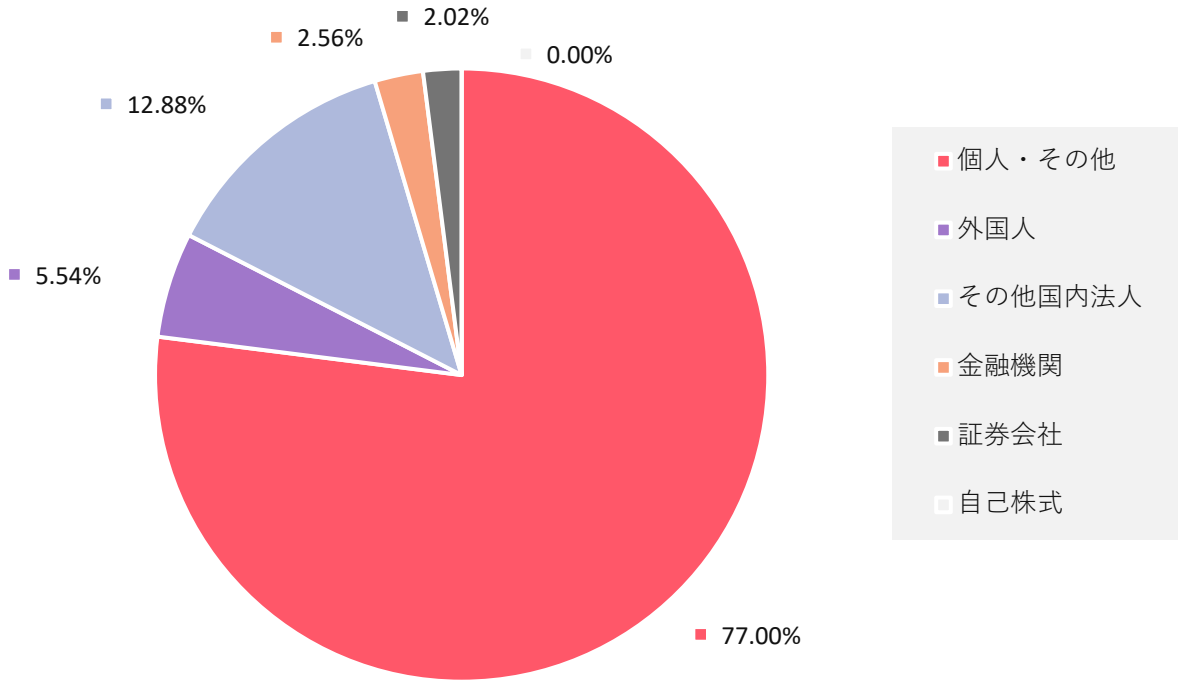
(1) 本件に関する詳細は2026/8/17公開の適時開示をご参照ください
(2) https://www.youtube.com/watch?v=XwMJ296ACdo&t=64s
(3) 本件に関する詳細は2026/8/21公開の適時開示をご参照ください

9月末時点で13.6万人と3月末時点から約2万人増と、多くの個人株主様の支援の元で事業を進捗

株式の状況（2026/9/30現在）

発行済株式総数	146,334,223株
株主総数	**136,233名**

所有者別株式分布（2026/9/30現在）



大株主（上位10位）（2026/9/30現在）

No.	株主名	所有株数（株）	持株比率（%）
1	袴田 武史（弊社取締役）	12,000,000	8.20
2	高砂熱学工業株式会社	6,997,520	4.78
3	ＪＩＣＶＧＩオポチュニティファンド１号投資事業有限責任組合	6,410,200	4.38
4	インキュベイトファンド３号投資事業有限責任組合	5,992,580	4.09
5	栗田工業株式会社	4,273,500	2.92
6	赤浦 徹（弊社取締役）	3,219,282	2.19
7	株式会社日本政策投資銀行	2,816,180	1.92
8	IF GROWTH OPPORTUNITY FUND 1, L.P.	2,135,720	1.45
9	個人株主	1,000,000	0.68
10	清水建設株式会社	873,960	0.59

（単位：百万円）	2025年3月期 Q1	Q2	Q3	Q4	通期	2026年3月期 Q1	Q2	Q3	Q4	通期	2027年3月期 Q1	Q2
				M2打上げ								
売上高(1)	635	706	647	2,755	4,743	1,165	1,028	549	563	3,307	168	400
売上原価	528	609	483	879	2,499	934	877	1,599	2,749	6,160	4,795	980
売上総利益	107	97	163	1,877	2,244	231	150	△1,049	△2,186	△2,853	△4,627	△580
売上総利益率	16.9%	13.8%	25.3%	68.1%	47.3%	19.9%	14.7%	-	-	-	-	-
販売管理費	2,402	1,536	2,863	5,238	12,039	2,475	2,069	1,736	2,445	8,726	1,770	1,875
研究開発費	1,411	791	1,506	4,022	7,730	1,236	1,043	425	1,223	3,928	434	629
給料及び手当	475	297	413	337	1,522	518	421	633	271	1,844	459	476
その他	516	447	943	880	2,786	721	604	677	950	2,953	876	769
営業損益	△2,295	△1,439	△ 2,699	△3,362	△9,795	△2,243	△1,918	△2,786	△4,631	△11,580	△6,397	△2,456
為替損益	858	△2,223	1,896	△1,175	△644	△304	810	1,585	650	2,742	530	△1,205
その他	△139	△552	△186	△18	△895	△331	△473	△580	2,079	696	△467	△448
経常損益	△1,576	△4,214	△989	△4,555	△11,334	△2,878	△1,581	△1,780	△1,900	△8,141	△6,335	△4,110
当期純損益	△1,579	△4,812	△973	△4,581	△11,945	△2,879	△1,584	△1,783	△1,905	△8,152	△6,336	△4,115

(1) 当社はこれまでに、ミッション1-3の売上計上においてそれぞれ原価回収基準を用いておりますが、2025年3月期Q4からは、ミッション2において「履行義務の進捗度に基づき収益を認識する方法」を用いて売上を計上

（単位：百万円）	2025年3月期				2026年3月期				2027年3月期	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
流動資産合計	21,220	22,527	20,181	19,067	30,742	24,953	38,598	34,384	28,262	27,714
内 現金及び預金	12,673	13,153	13,233	13,117	26,460	20,078	34,273	29,690	25,703	22,585
内 短期前渡金	4,928	5,622	5,706	3,620	3,358	3,747	3,042	3,991	1,782	4,416
固定資産合計	5,341	6,018	6,649	8,121	8,221	10,183	12,219	13,320	12,639	12,816
内 有形固定資産	3,092	3,480	3,929	4,859	4,804	5,103	5,822	7,218	7,449	7,671
内 長期前渡金	1,965	2,310	2,473	2,997	3,110	4,781	5,815	5,515	4,587	4,659
総資産合計	26,561	28,545	26,831	27,189	38,964	35,137	50,818	47,704	40,901	40,530
流動負債合計	12,076	9,081	7,310	3,854	3,896	4,703	4,830	5,696	7,256	7,328
内 前受金(1)	3,214	3,758	3,305	2,695	2,320	1,938	1,991	754	760	2,259
固定負債合計	6,471	14,081	14,907	16,326	31,293	29,329	29,142	26,834	24,981	27,471
内 長期借入金	6,224	13,830	14,701	16,096	31,095	29,177	28,979	26,353	24,492	26,987
負債合計	18,548	23,162	22,218	20,182	35,189	34,034	33,972	32,531	32,238	34,799
純資産合計	8,013	5,383	4,613	7,007	3,775	1,103	16,845	15,173	8,663	5,731
負債純資産合計	26,561	28,545	26,831	27,189	38,964	35,137	50,818	47,704	40,901	40,530
（有利子負債）	14,054	18,083	17,231	16,096	31,595	30,867	30,669	29,443	29,758	30,888

(1) 前受金と契約負債の合計値

本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の結果や業績は、将来予想に関する記述によって明示的又は黙示的に示された将来の結果や業績の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらリスクや不確実性には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。